

# 滋賀県立障害者福祉センター

令和4年度

## 年報

設置主体 滋 賀 県

指定管理者(公財)滋賀県身体障害者福祉協会

# は じ め に

滋賀県立障害者福祉センターは、平成2年に「心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、教養の向上、健康の増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る」ことを目的として設置され、当協会が指定管理者として管理運営を行っているところです。

令和4年度は、第四期指定管理期間(令和3年度～令和7年度)の2年目であり、「利用者一人ひとりに寄り添い、ともに成長するセンター」を目指し、経営方針の下、安全安心を基本に、質の高いサービスの提供に努めてまいりました。

しかし、令和4年度も新型コロナウイルス感染症は収束に至らず、センターにおいても引き続き感染予防を心掛けながらの運営となりました。他方で感染予防は現在の社会では日常的なこととなり、感染予防と事業活動の両立を求められた一年でもありました。検温、手指消毒、体調確認や利用時間、利用人数の制限など、利用者の皆様には大変な御不便をおかけしましたが、一日も閉所することなく運営することができました。

また、新たに実施したオープンアリーナやオープンプール、おたのしみ縁日には多くの皆さんに参加いただきました。ご利用いただいた皆様にお礼申し上げますとともに、日々の運営にご協力いただいているボランティアの皆様をはじめ、関係団体や関係機関の方々の温かい御支援と御協力に改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行し、社会全体が次の局面に移ろうとしています。センターは、今後も利用者の皆様に安全安心に御利用いただくことを第一に考え運営してまいりますので、関係者の皆様の変わらぬ御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、令和4年度の事業概要を年報としてまとめたものです。

御高覧いただき、御教示いただければ幸いに存じます。

令和5年7月

指定管理者

(公財)滋賀県身体障害者福祉協会  
滋賀県立障害者福祉センター所長

# 目 次

I 事業の概要	1
1. 行事・交流・大会事業	1
2. スポーツ・文化教室	8
3. 更生相談事業	28
4. 養成・研修事業	31
5. 共催事業	34
6. 自主事業	35
7. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	36
8. お客様アンケート	37
9. 広報・啓発	39
10. 会議等	40
11. 研修状況等	41
II クラブ活動	42
III 利用状況	43
IV 利用者と支える人の声	49
V 施設の概要	51
VI 組 織	56

# I 事業の概要

当センターは、障害のある人を対象とした行事、スポーツ教室、文化教室、更生相談、社会参加を進める等、活動の場を提供した。

## 1. 行事・交流・大会事業

### オープンアリーナ

#### (1) 期 日

第1回目 令和4年4月29日(金・祝)

第2回目 令和4年10月10日(月・祝)

※第2回目の8月11日(木・祝)は新型コロナウイルス感染症の影響で日程変更した。

第3回目 令和4年11月23日(水・祝)

第4回目 令和5年2月23日(木・祝)

#### (2) 参加人数等 延べ109人

#### (3) 目 的

障害のある人とその家族・介助者が、アリーナで色々なスポーツやレクリエーションをとおして、指導員とともにスポーツを楽しみ、今後の事業等の参加につなげる。

#### (4) 内 容



第1回目 バレーボール体験  
バスケットボール体験



第2回目 バレーボール体験  
バスケットボール体験



第3回目 テニス体験

※卓球、ボッチャ、体の使い方は、毎回実施した。



第4回目 打って投げてボールで楽しもう！

#### (5) 総 評

スポーツをとおして参加者と関わることを大切にして開催した。指導員が関わることで、参加者に合った声かけや内容を提供することや、様々なスポーツに対して興味、関心を持ってもらうことができ、新たなスポーツに挑戦するきっかけ作りになった。

## オープンプール

### (1) 期 日

第1回目 令和4年5月 4日(水・祝)

第2回目 令和4年7月18日(月・祝)

第3回目 令和4年9月19日(月・祝) ※台風のため中止

第4回目 令和5年1月 9日(月・祝)

### (2) 参加人数等 延べ36人

### (3) 目 的

障害のある人とその家族・介助者が、指導員と一緒にプールに入り楽しむことで、今後の事業の参加および施設の利用につなげる。

### (4) 対象・内容



第1回目

対象：小学生以下の障害のある人とその介助者  
内容：水慣れ・伏浮き・けのび・サーキット等



第2回目

対象：身体障害者・重度肢体不自由児者  
内容：個々に応じた内容  
(歩行・泳法・リラックス方法等)



第4回目

対象：障害のある人  
内容：初心者水泳(クロール)

#### ※3回目実施予定

対象：中学生以上の知的障害者

内容：個々に応じた内容  
(歩行・泳法・リラックス方法等)

### (5) 総 評

指導員と一緒にプールを楽しむことを大切にして開催した。参加対象や指導内容が決まっていることで、参加者に合った指導をすることができ、参加者、指導員双方にとって有意義な時間を過ごすことができた。

参加者からは、「丁寧に教えてくださり充実した時間だった」、「大きなプールでのびのび水遊びができて楽しそうにしていました」などの感想が寄せられた。また、この事業をきっかけにプールに来られるようになった家族もあり、施設利用の拡大につながった。

## おたのしみ縁日

### (1) 期 日

第1回目 令和4年7月30日(土)

第2回目 令和4年8月20日(土)

### (2) 参加人数等 延べ161人

### (3) 目 的

夏の雰囲気を楽しみ、夏休み期間中の利用者サービスを図るとともに家族や友達と交流を深め、思い出を作る機会にする。

### (4) 協 力

滋賀県身体障害者福祉協会青壮年部

センター登録ボランティア

### (5) 内 容



おたのしみすくい



魚釣り



コリントゲーム



空気砲

### (6) 総 評

夏休みに家族・友達と楽しんでいただくことを目的に、今年度初めて開催した。県内の新型コロナウイルス感染者数が急増していたため、遊ぶ時間や人数を制限する等の対策を行った。

参加者の中には当日のセンター利用者だけでなく、縁日のイベントのために浴衣を着て参加してくださる方もおられた。ゲーム後にもらえる景品に喜ぶ姿や、家族、友達と和気あいあいとゲームをする姿が見られ、非常に賑やかな雰囲気の中、楽しんでいただくことができた。

## シーズンディスプレイ

### (1) 期 日・内 容



令和4年4月16日(土)～5月31日(火)  
【こいのぼり】



令和4年6月15日(水)～7月10日(日)  
【七夕】



令和4年10月1日(土)～11月6日(日)  
【ハロウィン】



令和4年11月19日(土)～12月28日(水)  
【クリスマス】



令和5年2月8日(水)～3月5日(日)  
【ひな祭り】

(2) 参加人数等延べ 738人

(3) 目 的

季節を感じるきっかけとし利用者の参加を得ながら館内をディスプレイすることで、センターをより身近に感じ、親しみを持ってもらおう。

### (4) 総 評

季節ごとに利用者へ作品を募り、それらを用いてセンター内に展示して彩った。館内は、季節が変わるたびに雰囲気を変え、展示の前を通る多くの利用者の目を引いた。シーズンディスプレイを通して利用者と会話をする機会が増え、関わりを多く持つことができた。

## レッツイベント

(1) 期 日 令和4年9月11日(日)

(2) 参加人数等 延べ195人

(3) 目 的

障害のある人があらゆる活動に積極的に参加する意欲を高める機会とし、この催しで障害のある人もない人も、様々な体験を通して障害の理解と認識を深めるための一助とする。

(4) 協 力

(福)びわこ学園 びわこ学園医療福祉センター草津  
センター登録ボランティア

(5) 内 容

- ・車椅子に乗る障害の重い方も、跳んで弾んでワクワク体験！  
予約制：スパイダー・サイバーホイール
- ・クラシック音楽に触れて、絵本や手遊び盛りだくさん！ リトミックーべるるんー
- ・音楽の力で心もカラダも元気になっちゃう！ 音楽ライブーmusigrouー
- ・工作体験！レジンを使ってチャームを作ろう！ 午前・午後／各先着30名

(6) 総 評

スパイダーやサイバーホイールでは、たくさん体を動かすことによって弾ける笑顔が見られた。リトミックや音楽ライブでは、心地よい音色に皆が知っている歌、大きい音が苦手な人も楽しんでいただけた。

参加者からは「周りを気にすることなく本人が伸び伸びと活動でき予想以上に楽しめた」、「家族も周りの目を気にせずに素直に楽しめたことは嬉しかった」等の感想が寄せられた。



## 障害者週間啓発イベント（清掃）

(1) 期 日 令和4年11月17日(木)

(2) 参加人数等 94人

(3) 目 的

障害のある人とない人が、清掃活動を通して障害者福祉についての関心と理解を深めるきっかけとし、広く社会にアピールするとともに、障害のある人自らも社会貢献活動に積極的に参加する意欲を高める機会とする。

(4) 内 容

福祉ゾーン一帯の落ち葉の清掃活動

(5) 協 力

福祉ゾーンねっとわーく、センター登録ボランティア

(6) 総 評

今年も近隣施設の協力を得て、多くの方に参加していただいた。主に歩道一面に広がったイチョウの落ち葉を清掃し、1時間程度の活動できれいな歩道へと様変わりした。

例年は、各施設ごとに区域を決め清掃していたが、今年度は、各施設で3つの清掃区域に分かれて実施したことで他施設の参加者と協力して清掃をする姿が見られた。参加者からは「落ち葉で埋もれていた歩道が、皆で協力して清掃したことで綺麗になり、歩きやすくなった」、「力を合わせてやったことで、絆が深まった感じがした」等の声が寄せられ、社会貢献活動に積極的に参加する意欲を高める機会とすることができた。





## 第39回水泳記録会

(1) 期 日 令和4年11月27日(日)

(2) 参加人数等 126人

(3) 目 的

障害のある人が日々の練習の成果を発揮する場とし、他者との交流を深めるとともに今後の練習への意欲を高める。

(4) 内 容

第1部【水中チャレンジ!】25mに挑戦・水中レクリエーション

第2部【記録会】自由形・バタフライ・背泳ぎ・平泳ぎ(各25m・50m)

(5) 総 評

第1部では、水泳を始めて間もない参加者が浮き具等を使用し、自身の力で25m完泳を目指した。緊張しながらも一生懸命に泳ぎきった姿に、観客からは盛大な拍手が沸き起こった。また、水中レクリエーションでは、滑り台等を配置したサーキットと水中玉入れで存分に楽しんでいただくことができた。

午後から開催した第2部の記録会では、自己ベストを出してやり遂げた満面の笑みでガッツポーズをしている参加者の姿が印象的だった。

参加者のアンケートからは「25mを泳げると思っていなかったのに足をつかずに泳げたのでびっくりしました」、「スタッフにアドバイスをいただいてクロールの形になり、去年より大幅にタイム更新! 本人も大満足の日になりました」等の日頃の練習の成果を存分に発揮できたことを喜ぶ回答が多くみられた。



## クリスマスイベント

(1) 期 日 令和4年12月18日(日)

(2) 参加人数等 延べ204人

(3) 目 的

障害のある人と障害のない人が共にクリスマスの雰囲気を感じ・共有する場を設け、社会参加と共助の一助とする。

(4) 内 容

午前の部 クリスマスオーナメント作り

缶バッジづくり

巨大迷路

遊びコーナー

午後の部 クリスマスコンサート 玉川ウインドオーケストラ

(5) 総 評

工作体験では、前年度と同様に季節を感じられるオーナメントやオリジナル缶バッジ作りを実施した。どちらも簡単な作業で作ることができ、参加者は、家族や介助者の方と相談しながら作った自分だけの作品を見ながら会話が弾んでいた。また、今年度新設した「遊びコーナー」は、障害や年齢を問わず参加できるゲームを3種類準備したことで「遊べるコーナーが多く楽しかった」と大変好評であった。休憩をはさんだ午後からは、前年度に引き続き、玉川ウインドオーケストラを招きクリスマスコンサートを開催した。参加者は、クリスマスソングや誰もが耳にしたことのある曲に合わせて、みんなが1つになり、リズムにのり体を揺らしながらコンサートを楽しんだ。



## ポッチャ交流大会

(1) 期 日 令和5年3月21日(火・祝)

(2) 参加人数等 41チーム延べ123人

(3) 目 的

ポッチャ交流大会を開催することで、各地域や団体の会員が練習のため日々集う機会を増やし、会員同士の交流促進と健康の増進を図り、地域団体の活性化を促進する。



(4) 内 容

全8コート。各コート5チームのリーグ戦。  
各試合2エンド。各エンドの持ち時間5分。

(5) 参加チーム・人数

大津市	10人(5チーム)	彦根市	11人(4チーム)	近江八幡市	9人(4チーム)
草津市	18人(5チーム)	守山市	8人(3チーム)	栗東市	6人(2チーム)
湖南市	11人(5チーム)	甲賀市	5人(2チーム)	東近江市	8人(4チーム)
高島市	6人(3チーム)	多賀町	2人(1チーム)	青壮年部	7人(3チーム)

(6) 総 評

県内全市町からの参加とはならなかったが11市町と1団体から100名を超える参加者が集い、各コート毎試合熱戦が繰り広げられた。

今年は、予定よりも1時間以上早く大会が終わったことから、1チームあたりの人数と試合数を増やすことができないか等の改善を今後の課題として検討していきたい。

## 2. スポーツ・文化教室

### スポーツ・文化教室開催状況

教室名		対象者	期間	曜日	回数	時間帯	定員	延受講者数
スポーツ 入門教室	グラウンドゴルフ定例会	障害のある人・障害のない人	5/20～3/17	金	6	13:30～15:15	15人程度	99人
	アクアビクス	障害のある人・障害のない人	4/23～3/25	土	11	10:30～11:30	20人程度	111人
	チャレンジボッチャ	障害のある人・障害のない人	4/15～2/17	金	6	13:30～15:00	15人程度	51人
	リズムでダンス	知的障害者（中学生以上）	1/7～3/18	土	6	15:30～16:30	20人	167人
	障害者スポーツ指導支援	障害者団体等	通年	—	38	—	—	691人
健康維持増進	大人の体の使い方&スイム	障害のある人・障害のない人（20歳以上）	6/17～3/17	金	7	10:00～11:45	15人程度	50人
	ラジオ体操	障害のある人・障害のない人	通年	—	228	9:25～9:30	—	854人
重度障害者 対象教室	水中らくらくアドバイス	重度肢体不自由児者とその介助者	通年	—	4	—	—	9人
ジュニア 対象教室	※体の使い方 幼児	知的・発達障害のある3～5歳児とその親（身体除く）	5/22～7/3	日	6	9:45～10:30	6組	87人
	※体の使い方 ジュニア	知的・発達障害のある小学生（身体除く）				11:00～11:50	10人	93人
	親子水泳	知的障害のある小学生（1～3年生）とその親	6/4～7/16	土	6	10:00～11:00	10組	128人
ステップ アップ 教室	卓球ラリータイム	障害のある人・障害のない人	4/19～3/28	火	12	13:30～15:00	12人程度	146人
	STTラリータイム	視覚障害者	4/21～3/16	木	11	13:30～15:00	10人程度	110人
	スイム・スイム・スイム	障害のある人（中学生以上35歳まで）	1/15～3/19	日	6	17:30～18:30	15人	117人
	水泳選手育成	小学校6年生以上の障害のある人で、競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/8～3/24	金	36	18:30～20:30	20人程度	958人
	バスケットボール選手育成	知的・発達障害のある高校生以上で、競技会への出場を希望し、高い意欲で練習会に参加できる人	4/16～3/4	土 日 祝	24	4月～12月: 10:00～12:00 1月～3月: 13:00～15:00	20人程度	283人
個別サポート	水泳個別アドバイス	障害のある人	通年	—	104	—	一日最大4人	104人
測定・評価	体力測定・トレーニングアドバイス	身体障害者・精神障害者	10/26	水	1	13:30～15:30	20人	25人
バック アップ	琵琶湖一周に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年	—	—	—	—	620人
	日本縦断に挑戦	障害のある人・障害のない人	通年	—	—	—	—	52人
	タイムトライアル	障害のある人	4/3・4/30・12/4	土・日	3	17:30～19:00	20人程度	7人
地域支援	短期水泳（湖北・湖東）	長浜・甲良養護学校区の身体・知的・発達障害のある小学生とその親	11/19～3/18	土	5	9:15～10:15	15組	142人
		長浜・甲良養護学校区の身体・知的・発達障害のある中学生以上				10:30～11:30	20人	120人
	短期水泳（湖西）	新旭養護学校区の知的障害児（小学生）とその親	11/12～3/11	土	5	13:30～15:00	8組	41人
		新旭養護学校区の知的障害者（中学生以上）					12人	52人
	体の使い方キッズ（湖北・湖西）	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある4歳～小学2年生（身体障害除く）とその親	11/23～3/12	日	5	9:30～10:30	10組	70人
	体の使い方ジュニア（湖北・湖西）	長浜・新旭養護学校区の知的・発達障害のある小学3年生～6年生（身体障害除く）					12人	108人
	障害者スポーツ体験指導事業	障害のある団体等	通年	—	11	—	—	343人
障害者文化 教養向上事業	絵手紙教室	障害のある人	5/11・6/1・7/6	水	3	10:00～12:00	10人	23人
	茶道教室①	茶道の経験がない人・初心者（中学生以上の障害のある人）	5/14～12/10	土	7	13:30～14:40	5人	65人
	茶道教室②	茶道の経験がある人（中学生以上の障害のある人）				14:50～16:00	5人	49人
	絵画教室 スマイル㊟	障害のある人（小学4年生以上）	5/15～11/20	日	6	13:30～15:30	10人	142人
	フラワーアレンジメント教室	障害のある人	10/2～2/5	日	5	10:00～12:00	10人	74人
	ガーデニング教室	障害のある人	5/21	土	1	13:30～15:30	10人	18人
	※手作り体験教室（押し花風鈴）	障害のある人	6/5	日	1	10:00～12:00	10人	15人
	お正月生け花教室	障害のある人	12/25	日	1	10:00～12:00	10人	15人
	※手作り体験教室（デコパージュ）	障害のある人	3/5	日	1	10:00～12:00	10人	16人
	将棋と囲碁のつどい	障害のある人・障害のない人	4/24～3/26	日	9	10:00～16:30	15人程度	61人
地域支援	地域文化教室	障害のある人とその介助者	通年	—	7	—	各10人程度	81人

[注] ※は令和4年度新たに開催した教室

## グラウンドゴルフ定例会

### (1) 目的

障害のある人もない人もグラウンドゴルフを通じて楽しく交流するなかで、健康の増進および社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ①6ホールをグループで2周ラウンドする
- ②毎回スコアを付けて、成績上位者およびホールインワン達成者を発表する。
- ③成績は、後日多目的ホールに掲示する。

### (3) 実施回数 6回

### (4) 総評 (参加者等延べ99人)

初めて参加された方もそうでない方も一緒にラウンドすることにより、参加者同士はもちろんボランティアの人たちとの交流も増え、励まし合う声や、ホールインワンが出るとアリーナに拍手が響き、一体感に包まれた。

参加者からは「良い運動になって、達成感が味わえる」、「人と会うことで気分転換ができた」等の声が聞かれ、参加者同士の交流の場や定期的に運動をする良い機会となった。



## アクアビクス

### (1) 目的

水中で動くことの楽しさを体験し、体力の維持増進・機能回復と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

リズムに合わせて基本的な動きを中心とした水中運動を行う。

- ①ウォーミングアップ：水中ストレッチ
- ②基本動作：上・下半身、前後左右の移動ステップ等の部分動作
- ③クールダウン：水中ストレッチ、リラックス

### (3) 実施回数 11回(予定回数12回 うち1回中止)

### (4) 総評 (参加者等延べ111人)

音楽や講師のカウントに合わせてリズムをとることで、参加者は自然に体を動かすことができ、巧みな講師の声かけにより、更に楽しく運動を続けることができています。

継続して受講している参加者が多く「体に無理のない運動で毎回楽しくできています」、「指導が非常に上手く、教室の時間は楽しく過ごすことができます」等センターでも人気の高い教室の1つである。



## チャレンジボッチャ

### (1) 目的

ボッチャの基本知識およびルール等を理解し、楽しみながら実践することにより、社会参加の促進を図るとともに、裾野を広げる。

### (2) 内容

- ①その日の内容に沿ったウォーミングアップ
- ②様々な展開を想定した戦術練習やレクリエーションを取り入れた練習
- ③ゲーム

### (3) 実施回数 6回

### (4) 総評 (参加者等延べ51人)

年度を重ねる毎に参加者、ボランティア共に少しずつ新規の方が増えている。

今年度は、展開練習の一つとして、攻撃側と守備側に分けてゲームを行いながら、併せて、まっすぐ投げるためにマーカーの間を通す練習を行った。繰り返すことで次第にレクリエーションやゲームでも練習の成果が発揮されるようになり、参加者の戦術の幅を広げることにつながった。

参加者からは「ボール一つでこんなに楽しめるとは思わなかった」、「いろいろな投げ方や的の狙い方など参考になった」等ボッチャの奥深さや魅力に気付いた感想が寄せられた。



## リズムでダンス

### (1) 目的

音楽に合わせて楽しく体を動かすことで運動量を確保し、体力の維持向上と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ①音楽に合わせてウォーミングアップ
- ②メイン曲でダンス(曲名：私は最強)
- ③クールダウン：ストレッチ、補強運動

### (3) 実施回数 6回

### (4) 総評 (受講者等延べ167人)

ウォーミングアップの中にメイン曲で使用する動きを取り入れたことで、受講者は、スムーズにダンスを覚えることができた。また、メイン曲でのダンス練習では、曲の歌詞に合わせた動きを取り入れ、曲の速さを調整するなど丁寧に繰り返し練習したことが、ダンスを覚えることにつながった。

受講者からは「自分から参加したいと言い、毎回とても楽しみにしていた」、「毎回教室の雰囲気明るく楽しく過ごせた」と良い評価をいただけたが、「指導者がしっかり振り付けを覚えていただきたい」との声もあり、この点については反省し、しっかり練習を重ねて今後の指導に活かしていきたい。



## 障害者スポーツ指導支援

### (1) 目的

当センターから遠隔地にある団体およびセンターを定期的に利用する施設等が実施する障害者スポーツやレクリエーション等の事業に対して、当センター指導員が指導を行い、県民の健康維持・増進、余暇の充実を図るための一助とする。



### (2) 内容

#### ① 療育教室

ア 湖の子園（草津市） 受講者等延べ 130人 全8回（うち2回中止）

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

イ にこにこ教室（野洲市） 受講者等延べ 154人 全5回

・プールでの活動（うち2回）

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

・体育館での活動（うち3回）

主に父親との運動遊び、体の使い方と家でもできる親子運動遊びの紹介

ウ めだかの学校（東近江市） 受講者等延べ 80人 全6回

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

エ くれよん（日野町） 受講者等延べ 27人 全2回

水慣れ、水中での体の使い方、介助方法

#### ② 遠隔地

ア 湖西障害者地域活動支援センターわになろう（高島市） 受講者等延べ 114人 全7回（うち1回中止）

体の使い方と補強運動・レクリエーション・軽スポーツ（ボッチャ）

イ 湖西総合在宅サービスセンターほろん（高島市） 受講者等延べ 24人 全7回（うち6回中止）

プールでの活動（中止）

軽スポーツ（うち1回） 体の使い方、ボッチャ

#### ③ その他

・県立精神医療センターディケア

『joy（ジョイ）スポ』（精神障害者）

受講者等延べ132人 全12回

ストレッチ、基礎的な補強運動と軽スポーツ

体力測定の実施



### (3) 総評

① 療育教室のプール活動では、水の特性や水中での体の使い方や楽しみ方を、保護者や保育士には基本的な介助方法やお子さん一人ひとりにあった介助方法を伝えた。

体育館での運動遊びでは、簡単な動きから全身を使う運動、自宅で親子でできる内容等を実施した。

② 遠隔地（高島市）ほろんのプール活動は、県内の急激な感染症拡大の影響で残念ながら中止となった。わになろうでは、最初に椅子を用いたストレッチや補強運動を行い、その後一定の運動量を確保するため、前年に引き続き牛乳パックやフープを使用したサーキットを行った。また、軽スポーツではボッチャを実施した。

ほろんでは、様々な年齢の方にストレッチや補強運動等で体の使い方を確認した後、ボッチャで楽しんだ。

③ joy スポでは、年に2回の体力測定の他、補強運動や軽スポーツを実施した。軽スポーツでは、こちらが提示する種目だけでなく、受講者がやりたい種目を加えた。軽スポーツを行うだけでなく、補強運動を行ったことで、体の使い方を理解するだけでなく、受講者の体力の維持増進にもつながった。

## 大人の体の使い方&スイム

### (1) 目的

皆で楽しく体を動かしながら健康維持と体力アップを目的とする。

### (2) 内容

#### 【陸上でのトレーニング】

椅子に座ってのストレッチ

筋力トレーニング

#### 【水中でのトレーニング】

歩行・筋力トレーニング

泳ぎの基本(けのび・キック)・クロール



### (3) 実施回数 全7回

### (4) 総評 (参加者等延べ50人)

楽しくお話しをして、笑いながら参加者全員でトレーニングに取り組んだ。

「身体のどの部分を意識して動かすのか」の説明が丁寧でわかりやすく、筋力トレーニングやストレッチの効果を期待しながら楽しくトレーニングに取り組めた」、「一人でするトレーニングとは違い、色々な方々と一緒に楽しく身体を動かしている内にいつの間にか時間が過ぎて身体の隅々まで動かすことができ、丁度良い強度のトレーニング内容です。続けて行うプールでのレッスンもあり有意義です」、「教室終了時には体調が良くなり、身体が軽く心地良い気分になります」との感想が寄せられ、高い評価をいただくことができた。

## ラジオ体操

### (1) 目的

障害のある人もない人も、センター施設を利用する前の準備運動の一つとしてラジオ体操を行い、継続的な健康の維持増進を図る。

### (2) 内容

ラジオ体操第一

### (3) 実施回数 228回

### (4) 総評 (参加者等延べ854人)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年度当初はラジオ体操を実施していなかったが、6月から対策を講じて再開した。

朝の受付開始前に多目的ホールで実施しており、ラジオ体操を目当てに、開始時間に合わせて来所される方や、早めに来所して待っている方の姿が見られた。また、個人利用者はもちろん団体利用者やセンターで開催される大会の参加者など、多くの方に参加していただいた。

「朝一番にラジオ体操をすると体がスッキリする!」、「ラジオ体操をするために早く来た!」等センター利用前の習慣となってきた利用者もあり、コロナ禍前の賑やかなラジオ体操に戻れるよう回数を重ねていきたい。



## 水中らくらくアドバイス

### (1) 目的

身体(肢体)に重度の障害がある人が、水中でリラックスして楽しく体を動かす。介助者は、対象者と自らの負担が少なく、効果的な介助法を身につける。

### (2) 内容

背浮きなど個々に応じたリラクゼーション方法、入退水の介助方法や水中での補助方法、補助具の有効な使い方等

### (3) 実施回数 4回

### (4) 総評 (参加者等延べ9人)

身体(肢体)に重度の障害があり、普段から身体の力がなかなか抜けない方がプールに入ることによって、水の特性を生かして少しでも力が抜けるように、一人ひとりに応じた介助方法を指導した。

介助者には、基本的な介助の姿勢や水中での体の動かし方、また、その人が水の中でリラックスできる方法や補助具の使い方などについて、障害者・介助者双方に負担が少なく効果的な介助方法等をアドバイスした。

参加者からは「補助をされていて、水の中で力が抜けたというのが分かった」、「子どもが大きくなってきて、抱っこでの入水が厳しくなってきたが、今回入水方法を教えてもらったので、次から試したい」など次につながる活動ができた。



## 体の使い方 幼児

### (1) 目的

楽しく身体を動かしながら身体の使い方を覚える

### (2) 内容

#### ①小アリーナでの活動

親子でスキンシップあそび、体ほぐし、バランス、ジャンプ等

#### ②フープを使って体のばし、しゃがむ→立つ、両足ジャンプなど

#### ③サーキット(基本動作を組み合わせたメニュー)

### (3) 実施回数 6回

### (4) 総評 (受講者等延べ87人)

今年度は、スキンシップ遊びの1つとして教室開始時に音楽に合わせて、子どもの腕や足を親が手のひらで優しく包みリラックスを図った。それにより表情が緩み、落ち着いて取り組める受講者が多くいた。その他にも自宅でも行える内容を意識した親子で行なえるスキンシップあそびや体ほぐしを行った。また、サーキット活動は、教室を進める中で全身を使って取り組める内容にして、見た目的にもコースを選ぶことができる等受講者が楽しめることを意識した。

受講者からは、「家での子供とのスキンシップの方法が増え、とても勉強になりました。今後も続けてやっていきたいです」、「一人ひとり丁寧にサポートしていただきありがたかった」等の感想が寄せられた。





## 体の使い方 ジュニア

### (1) 目的

楽しく身体を動かしながら身体の使い方を覚える。

### (2) 内容

小アリーナでの活動

- ①体ほぐし、バランス、ジャンプ等
- ②フープを使って体のばし、しゃがむ→立つ、両足ジャンプ 等)
- ③サーキット(基本動作を組み合わせたメニュー)

### (3) 実施回数 6回

### (4) 総 評 (受講者等延べ93人)

前半のストレッチでは、特に序盤の回で集中できない受講者が多かった。教室を進める中で、場面の切り替え時のメリハリをつけるためフープを使っての活動やサーキット活動を多くすることで、活動への興味が湧き、意欲的に参加することができた。また回を重ねる中で、運動量とダイナミックな動きに重点を置きながら繰り返し行うことで、スムーズな体の使い方につなげることができた。

「障害のある子の対応に慣れており、しっかり指示してくださったので安心して参加できました」、「週に1度、しっかりと体を動かせる機会となりよかった」など、各受講者が、受講後学校や家での活動に生かせる内容に満足度も高かった。



## 親子水泳

### (1) 目的

障害のある小学生が水に慣れ、親子で水泳を楽しむ中で、集団でのルールを身につけるとともに泳ぎの基本姿勢や集中力を養う。

### (2) 内容

- ①ラジオ体操、補強運動(足首の運動、ジャンプ等)
- ②腰かけキック、水浴び、入水
- ③基本練習(水慣れ、ジャンプ呼吸、伏浮き等)
- ④サーキット(各回のまとめ)

### (3) 実施回数 6回

### (4) 総 評 (受講者等延べ58組128人)

水慣れや呼吸練習からはじめ、伏浮きやけのびなど泳ぎにつながる基本練習を親子で繰り返し取り組んだ。受講者が安心して取り組めるように、個々に合わせて水深を調整するために台を入れた。また、浮き具を使用することで、少しずつ水中での活動に慣れていき、力が抜けるようになっていった。力が抜けたことで身体も伸びるようになり、伏し姿勢も上手にとれるようになった。

受講者からは「水泳の練習の仕方がわかって、これからは自分達でも練習できそうです」、「水泳を家族でできる趣味につなげられそうです」等の声をいただき教室終了後も親子でプール利用する姿も見られるなど、家族でのプール利用へつなげることができた。



## 卓球ラリータイム

### (1) 目的

障害のある人、ない人がラリーをとおして多くの人と交流する場とし、より卓球を楽しむためにラリー技術の向上を目指す。

### (2) 内容

6分間のローテーションでラリーを行いながら、ワンポイントアドバイスをを行う。

### (3) 実施回数 12回

### (4) 総評 (参加者等延べ146人)

多くの方とより長くラリーを続けられることを目的に、制限時間内に最大何回続けることができるかという、“ラリーチャレンジ”を実施した。その時は、ラリーが続くよう普段より集中力が高まり、回数を重ねるごとに相手に合わせたラリーができるようになった。

受講者からは「動体視力が良くなり動きが楽になった」、「ラリーがずいぶんと続くようになった」等の声が寄せられ、技術の向上を実感していただくことができた。



## STT ラリータイム

### (1) 目的

視覚に障害のある人同士が、サウンドテーブルテニスのラリーをとおして、交流を深める中で技量を高める。

### (2) 内容

6分間のローテーションでラリーを行いながらワンポイントアドバイスをを行う。

### (3) 実施回数 11回

### (4) 総評 (参加者等延べ110人)

「ラリー中は足を動かしてボールの正面に入って打つこと」を参加者が意識することで、無理な態勢から手だけでボールを打つことが減少した。また、ボールを打つポイントやラケットの角度を一定にすることも伝えたことで、打球時に音が鳴らないホールディングの回数も減少し、ラリーの安定につながった。

参加者からは「参加することにより、人との交流、健康維持、気分転換の全てに関わった」との感想が寄せられ、参加者同士の交流や運動をする良い機会となった。



## スイム・スイム・スイム

### (1) 目的

障害のある人が目標を持ち、練習を通じて技術を高める。集団活動の中で、健康の増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

①泳力レベル(初級・中級・上級)別に指導

②泳ぎの基本から泳法(キック・手回しのドリル練習、スイム、スタート練習等)



### (3) 総評 (受講者等延べ117人)

初級(4人)、中級(3人)、上級(3人)に分かれ、泳力に応じて課題に取り組んだ。初級・中級は合同で、身体を伸ばす「けのび」から自由形(クロール)で進むことを目標に、また、上級はクロールの基本動作を段階的に行い、最終日にはスタート練習からタイム計測をして全6回の成果を試す場とした。

アンケートでは「丁寧に関わっていただき楽しく参加できたこと」、「細かく段階を踏んでいただき取り組みやすかったこと」等で高い評価となっており、受講者・保護者からの教室に対する満足度も高かった。

## 水泳選手育成

### (1) 目的

県障害者スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会への出場を目指す新たな選手の発掘・育成を行う。

### (2) 内容

ストレッチ・補強運動・泳法指導

①陸上練習(プールサイド)

足首、肩関節を中心としたストレッチ  
体幹を中心とした筋力トレーニング

②水泳練習(プール)

基本練習(けのび・キック) 泳力別グループ指導・飛び込み・ターン

### (3) 実施回数 全36回

### (4) 総評 (受講者等延べ958人)

基本練習の中でも、特に上半身の伸びを意識することでストリームラインの姿勢が良くなり、自然と伸びのある泳ぎにつながっている。

陸上での筋力トレーニングを繰り返し行うことで、口々にしんどいと言っていた言葉が少なくなり、回を重ねるごとに集中して身体の部分に意識ができて、筋力アップを図ることができた。



## バスケットボール選手育成

### (1) 目的

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けた選手の発掘と育成をはかり、県大会出場を目指す。

### (2) 内容

準備運動：ストレッチ・柔軟

補強運動：体幹トレーニング・腹筋・もも上げ  
サイドステップ・ダッシュなど

基本練習：ハンドリング、ドリブル、パス、  
シュート練習など

応用練習：レイアップシュート、ドリブルシュート、2メン、ディフェンス練習  
パスゲーム(3対2、4対4)、ミニゲーム

### (3) 実施回数 24回(予定回数25回 うち1回は台風の為中止)

### (4) 総評 (受講者等延べ283人)

バスケットボールの動きだけでなく、けがをしない体づくりを目的に、前半は基本的な体の使い方や体力づくりを行った。後半は、バスケットボールの基礎的な動きをメインに行うことで、バスケットボールの基礎的な動きの習得につなげた。

県大会では、男子はリーグで2勝し、決勝へと進んだ。女子はオープン参加となったが、2勝1敗と健闘した。男女とも日頃の練習の成果を十分に発揮することができた。



## 水泳個別アドバイス

### (1) 目的

水慣れしていない人や、水泳経験の少ない人がそれぞれの泳力に合った入水やリラックス方法または泳法を習得する。

### (2) 内容

個人の目的・希望に応じた指導(歩行、水慣れ、四泳法など)

### (3) 実施回数 104回

### (4) 総評 (受講者延べ104人)

この事業の1番の良いところは、集団での受講が難しい方にとって、1対1の環境で受講者の課題に絞って受講できることである。受講者は、幼児から小学生が大半を占めており、回数を重ねるごとにできることが増え、それが自信や、やる気につながり、水泳を継続するきっかけになっている。また、親子水泳などのプール教室が終了した後に、引き続き水に親しみ水泳に取り組む場としても、受講者からのニーズが高い。当センターの更なるプール利用や、水泳教室や水泳記録会の参加等の相互作用につなげていきたい。



## 体力測定・トレーニングアドバイス

### (1) 目的

身体障害者および精神障害者に自己の体力の現状を正しく認識して、今後の健康生活の基本となる運動習慣の大切さや体力の維持向上を図る動機づけおよび行動の変化を目的とする。



### (2) 内容

- ①身長、体重、血圧、握力、長座体前屈、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち、10M最大歩行、タイムドアップ&ゴーテースト、大腿周囲・下腿周囲の測定、体組成計による体組成分析
- ②理学療法士からのトレーニングアドバイスおよび管理栄養士からの栄養指導

### (3) 実施回数 1回

### (4) 総 評 (受講者等延べ25人)

今年度は30分間に4人まで予約可能な体制で実施したため、一人当たり十分な時間を確保でき受講者のペースで実施することができた。

受講者からは「体力づくりの努力目標が明確になった」、「日常生活でも意識していきたい」との声があり、今後のトレーニング時の目標設定や、生活習慣を見直す機会とすることができた。

## 琵琶湖一周に挑戦

### (1) 目的

水泳と水中歩行に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ①琵琶湖一周 = JR換算距離178kmとする。
- ②泳いだ距離または歩いた距離を、個人カードに記入する。
- ③毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。
- ④達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間40回(今年は開所日数を考慮した)以上挑戦された方には記録証を授与する。
- ⑤参加者全員に1年間(1月～12月)の個人カードを記録冊子にして交付する。



### (3) 総 評 (参加者等延べ620人)

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でプールが一時期閉鎖となり、挑戦できる日数が減少した。しかし、その中でも15の方が一周を達成し、22人に記録証を授与することができた。

参加者からは、「日々の記録が知れてありがたい」等の声をいただいております。日頃の成果を記録することで、意欲や目標をもって利用されている。また、一周までの残距離がわかることで、継続して続ける指標となっている。

## 日本縦断に挑戦

### (1) 目的

エアロバイクやトレッドミル等での運動に一定の目標を持ち挑戦することにより、体力増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

①日本縦断は、北海道から沖縄までの鉄道・新幹線・飛行機を組み合わせた換算距離3,418kmとする。

②エアロバイクまたはトレッドミルで進んだ距離を個人カードに記入する。

③毎月のトータル距離を翌月の月初めに集計し、結果を掲示する。

④達成回数に応じて記念品、メダルまたは達成証を贈呈し、年間50回以上挑戦された方には記録証を授与する。

⑤参加者全員に1年間(1月～12月)の個人カードを記録冊子にして交付する。

### (3) 総評 (参加者等延べ52人)

前年度よりもトレーニング室の利用者は多かったものの、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、日本縦断達成者、年間50回以上挑戦する参加者はなしという残念な結果となった。

達成者はなかったものの参加者は、目標達成のために日々のトレーニングの中で意識して取り組まれている。また、記録を振り返ることで、次への目標を持つきっかけにもなっている。



## タイムトライアル

### (1) 目的

定期的に計測することで、タイムを意識し、競技意欲を高める。

飛び込む機会を持つことで技術を高める。

### (2) 内容

①ウォーミングアップ

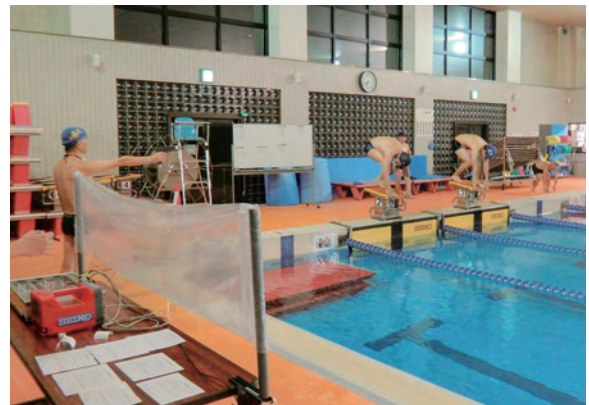
②飛び込み練習(ワンポイントアドバイス)

③タイム測定

(3) 実施回数 3回(予定回数4回のうち1回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

### (4) 総評 (参加者等延べ7人)

飛び込み練習やタイム測定ができることから、大会前の最終調整のために参加される方が多い事業である。飛び込み練習では、飛び込む際の体重移動とスタート台を最後に足の指先で押すことを重点的にアドバイスした。参加者は、それらのことをビデオ撮影の映像を見て振り返ることで、自身のフォームを客観的に見つめ直し、課題を確認し、修正をしていった。また、タイム測定では、現在の泳力を把握して、大会への調整の参考にしたり、今後の目標タイムを設定したりと技術の向上に余念がなかった。



## 地域短期水泳（湖北・湖東）

### （1）目的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

### （2）場所

甲良町保健福祉センター温水プール

### （3）内容

●親子水泳：水慣れ・伏し浮き・背浮き・介助の仕方  
滑り台等

●中学生以上：水中運動・水慣れ・基本姿勢・呼吸法・け伸び・背浮き・板キック・クロール

### （4）実施回数 5回

### （5）総評（受講者等延べ262人）

小学生の部は、親子で楽しく取り組むことと子どもへの介助方法や関わり方などそれぞれに合わせた指導を行った。

中学生以上の部では、水慣れと基本姿勢を繰り返して行った。短い距離で基本練習を繰り返すことで、泳ぎを整えることができた。

「丁寧でわかりやすい」、「子どもに合わせて本人の特性を理解し関わってもらい、本人も楽しんで参加できた」、「小学生から中学生へと、子どもの成長していける場であり、その成長を見ることができる教室」と良い感想も得られたが、泳力レベル別に分けての指導を望まれる意見もあった。全体(集団)の活動で個々に応じた対応を心掛けたが、グループ指導の課題も取り入れられるよう、指導力を養い、より良い教室内容を提供できるようにしたい。



## 地域短期水泳（湖西）

### （1）目的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。

### （2）場所

高島市 B & G 海洋センター温水プール

今津 B & G 海洋センター温水プール

※高島市B&G海洋センターの工事に伴い2月のみ今津B&G海洋センターで開催

### （3）内容

●小学生の知的障害者とその親の部

水慣れ・基本姿勢・け伸び・伏し浮き・背浮き・腰かけキック・バタ足・板キック等

●中学生以上の知的障害者の部

基本姿勢・腰かけキック・け伸び・伏し浮き・背浮き・バタ足・板キック・クロール・呼吸法  
背泳ぎ等

### （4）実施回数 5回

### （5）総評（受講者等延べ93人）

小学生の部では、水慣れをメインに、身体を伸ばして浮く練習を行った。回数を重ねるごとに水に慣れ、力が抜け身体が伸びて浮けるようになった。

中学生以上の部では、泳力別のグループを2つに分けて、基本姿勢からのクロールや背泳ぎ等の練習を行い、少しずつ泳力が向上していった。



## 地域体の使い方 キッズ（湖北・湖西）

### （1）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。



### （2）内 容

- ①サークルでの運動(ストレッチ、補強運動)
- ②列での運動(ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ、ケンケン等)
- ③サーキット(フープや牛乳パック、平均台や鉄棒等を使ってコースを設定)

### （3）実施回数 5回

### （4）総 評（受講者等延べ70人）

9人中4人が昨年から引き続き受講されていたため、見通しがもって落ち着いて取り組むことができた。

今年度は、サーキットの時間を増やし、前半に行った補強運動や基本的な動作練習をその中に組み込み反復して行うことで、1回の教室の中で動きに慣れてもらうことができた。また、鉄棒や平均台など新たな種目を取り入れることで、全身を使って運動することができた。

## 地域体の使い方 ジュニア（湖北・湖西）

### （1）目 的

当センターに通えない遠隔地の障害者に対して、当センターで、開催している教室を県内各地で開催することにより、学習機会の提供を図り、サービス提供の均一化の一助とする。



### （2）内 容

- ①サークルでの運動(ストレッチ、補強運動)
- ②フープを使った運動(片足立ち、両足ジャンプ、グーパージャンプ等)
- ③列での運動(ハイハイ、高ばい、両足ジャンプ、ケンケン、スキップ等)
- ③サーキット(フープや牛乳パック、マットや鉄棒等を使ったコースを設定)

### （3）実施回数 5回

### （4）総 評（受講者等延べ108人）

今年度は、前半にフープを使った運動を行い、フープの中で両足ジャンプや片足立ち、その場ケンケンを行った。列での運動では、日ごろ行わないハイハイや高ばいをしたり、苦手とされることの多いケンケンやスキップなどを繰り返し行った。

後半のサーキットでは、鉄棒や平均台を使いながら様々な運動をしてもらうことで、体全体を使った動きができるようになった。



## 障害者スポーツ体験指導事業

### (1) 目的

障害者団体からの要請に応じて、現地への職員派遣も含めて広く事業展開し、障害者の自立と社会参加の一層の促進を図る。

### (2) 内容

実施日	依頼先	内容	人数
令和4年7月10日	草津市手をつなぐ育成会	ボッチャ・フライングディスク	44人
7月31日	滋賀県手をつなぐ育成会	体の使い方・ボッチャ・フライングディスク	62人
8月13日	野洲ワイワイサークル	体の使い方	16人
8月25日	支援センターあーと	体の使い方・ボッチャ	17人
9月16日	高島ハーモニー	体の使い方・ボッチャ	26人
9月30日	東近江市市原小学校（特別支援学級）	体の使い方・ボッチャ	18人
10月30日	遊☆viva!!	プール	10人
12月8日	東近江市身体障害者厚生会	ボッチャ	73人
令和5年2月3日	大津市大石小学校（特別支援学級）	プール	20人
2月21日	愛荘町愛知中校区特別支援学級交流会	ボッチャ	48人
2月23日	インフィニティふふ	体の使い方・フライングディスク	9人
計11件			343人

## 絵手紙教室

### (1) 目的

障害のある人が、絵手紙教室に参加して、形式ばらず、楽しく思いのまま作品を制作して自らを表現するとともに、参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

1回目：絵手紙の基本を振り返りながら絵手紙をつくる。

(道具の説明、筆の持ち方、絵手紙の心得等)

2回目：色の濃淡、色の重ね方を学び実践する。

3回目：いろいろな素材を使って絵手紙をつくる。

(葉を押して下絵にする、折りたたんだ折り紙をつかう等)

### (3) 実施回数 3回

### (4) 総評 (受講者等延べ23人)

前年度から始まった2年目の教室である。「絵を描くのが苦手だから」と敬遠される方もおられ、今年度は継続の受講者ばかりとなった。

この教室の合言葉は「ヘタでいい、ヘタがいい」。難しいルールは何もなく、受講者は、見たまま、思ったままを思い切りハガキにつめこんで、世界にたった一枚の素敵なお絵手紙を完成させた。

教室では実践を中心とし、持参したモチーフを描くだけでなく、葉の葉脈に墨をつけて色付けしたり、折りたたんだ用紙に描いたりと一味違った絵手紙も体験することで、発想の楽しさを感じていただいた。



## 茶道教室①・②

### (1) 目的

障害のある人が茶道教室に参加して、基本を身につけ、茶道を楽しむ情操を豊かにするとともに、参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

①お茶のいただき方の練習

②割稽古(帛紗わりげいこさばき、棗なつめ・茶杓ちやしやく・茶碗ちやせんの清め方、茶筌てまえ通しの仕方等)

③個々の能力に応じたお点前を学び、通してできるように練習を行う

### (3) 実施回数 7回

### (4) 総評 (受講者等延べ114人)

講師の所作がよく見えるように、受講者の横に並んで座る形で教室を進めた。丁寧に手ほどきをしつつ、受講者に合わせたゆっくりとしたペースで行われ、初心者の方も回数を重ねるごとにお点前を覚えることができた。

受講者からは「とても楽しく学べました」、「親切・丁寧に教えていただきました」との声が寄せられた。次年度から脱コロナを見据え、ご自服のみ等の制限していることを見直し、日常の安らぎや楽しみとなる教室にしていきたい。



## 絵画教室スマイル

### (1) 目 的

障害のある人が気軽に参加できて、自由に表現できる場を提供し、文化活動の振興の一助とする。

### (2) 内 容

①“私の好きなものを描こう”というテーマに沿って自分の作品を制作する

②仕上がった作品を他の受講者の前で発表する

### (3) 実施回数 6回(予定回数7回のうち1回は中止)

### (4) 総 評 (受講者等延べ142人)

今年度は、作品作りのテーマを「私の好きなものを描く」とした。毎回教室の最初に講師から画材の使い方や有名画家の画集などを例に作品作りの上でヒントになることを伝えられ、それを活かしながら作品作りに取り組んだ。前年度に引き続き、作品は1回で仕上げるのではなく、1つの作品を講師のアドバイスをもとに何度も試行錯誤し継続して描くことで、より深い作品に変化することを感じていただいた。

また、今年度も2つの作品展に応募したところ、ぴかっ to アート展で1名の受講者が佳作に選ばれた。本人は、授賞式にも参加され、時間をかけてつくりあげた作品が認められた喜びの中で、緊張しながらも誇らしげな表情で賞状を受け取られた。表彰され展示されたという報告は、他の受講者にとっても大きな励みとなり、創作意欲が促された。



## フラワーアレンジメント教室

### (1) 目 的

障害のある人がフラワーアレンジメント教室に参加し、お花に親しみ、楽しみながらフラワーアレンジメントを学び、情操を豊かにするとともに参加者同士の交流と社会参加の促進を図る。

### (2) 内 容

第1回目：ハロウィンのフラワーアレンジ

第2回目：クリスマスリース

第3回目：しめ縄

第4回目：春のアレンジ

第5回目：バレンタインアレンジ

### (3) 実施回数 5回

### (4) 総 評 (受講者等延べ74人)

教室では、季節のイベントにちなんだアレンジメントや、季節の花を用いた多様なアレンジメントを実施した。教室の最後には完成した作品をならべて鑑賞する時間を設けることで、写真を撮り合い、感想を言い合うなど交流を深めることができた。

受講者からは「季節ごとの花やイベントに合ったアレンジメントが良かった」、「励ましてもらいながら、本人のできることを頑張り満足感を得られた」等の感想が寄せられ、自分で作品をつくりあげる達成感を感じていただくことができた。



## ガーデニング教室

### (1) 目的

季節折々の植物を使って、楽しみながら寄せ植えをし、その出来栄を互いに愛で、情操を豊かにするとともに、参加者同士の親睦と交流および社会参加の促進を図る。



### (2) 内容

季節の植物を使った寄せ植え

- ①使用する植物の説明
- ②講師が手順等を説明しながら見本を作製する
- ③講師の見本を見ながら、それを手本に受講者も自分の寄せ植えを作製する
- ④質疑応答

### (3) 総評（受講者等延べ18人）

新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの開催となったが、引き続き人気が高く、開催を待ちわびていた方が先を競うように申し込みをされていた。

受講者は教室が始まると講師の話を熱心に聞きながらメモを取り、寄せ植えが始まると立ち上がり全体の形を確認するなどイメージどおりの寄せ植え作りに取り組んだ。また、受講者同士で、作品を見せ合い意見交換をするなど交流する姿もみられ、最後の質疑応答でも多くの質問が寄せられるなど活気ある教室となった。

## 手作り体験教室（押し花風鈴）

### (1) 目的

障害のある人が、手作り体験教室に参加して、自然の色や形をそのまま生かした押し花を使った作品づくりを楽しみながら、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。



### (2) 内容

- ①使用する材料、制作方法、注意事項の説明
- ②押し花を選ぶ
- ③風鈴にレジンを塗り、押し花を配置する
- ④UVライトを照射し、レジンを固める
- ⑤完成した作品を展示し、受講者で鑑賞する

### (3) 実施回数 1回

### (4) 総評（受講者等延べ15人）

今年度の手作り体験教室の1つとして、押し花を使ったオリジナル風鈴を作成した。

UVライトの照射時は光を直接見ないこと等に注意して、押し花をどのように配置すると綺麗になるのかを真剣に考えながら制作されていた。球体にレジンを付ける作業が難しく、苦戦する様子も見られたが「手軽にでき、季節にちょうど良い作品ができた」、「素敵な風鈴ができて大満足です」と、風鈴の涼しげな音を楽しまれていた。

## お正月生け花教室

### (1) 目 的

障害のある人が生け花教室に参加して、季節の花を愛で楽しみながら、花を生け、情操を豊かにし、教養を高めるとともに、受講者同士の交流と社会参加への促進を図る。

### (2) 内 容

- ①花材等の全般の説明
- ②講師が見本を生けながら説明を行う。
- ③講師の手本を見ながら花を生ける。
- ④生け終わった作品を講師に見ていただき、アドバイスを受ける。
- ⑤質疑応答

### (3) 実施回数 1回

### (4) 総 評 (受講者等延べ15名)

初受講の方が10名中4人というフレッシュな顔ぶれの中、受講者はそれぞれのペースでお花を生けることを楽しみながら、お花をとおして交流が活発に行われた。

受講者からは、「お正月に向けて華やかな生け花ができた。長くお花を楽しめそう」、「テーブルをまわって個別にアドバイスしてもらえてよかった」等の感想が寄せられた。家に帰ってから床の間に飾った写真を送ってくださった受講者もあり、新年を迎えるにふさわしい華やかな作品ができたことに満足度も高かった。



## 手作り体験教室 (デコパージュ)

### (1) 目 的

障害のある人が、イラストなどが入った絵や紙を切り貼りして楽しみながらデコパージュ体験し、作品をつくとともに、受講者同士の交流と社会参加の促進を図る。

### (2) 内 容

- ①使用する材料、制作方法、注意事項の説明
- ②イラスト用紙やデコレーション素材を選ぶ
- ③イラスト用紙を切って手鏡に配置する
- ④デコパージュ液を塗り、手鏡に貼ってドライヤーで乾かす
- ⑤講師から講評を受ける

### (3) 実施回数 1回

### (4) 総 評 (受講者等延べ16人)

今年度手作り体験教室の1つとして、2個の手鏡を自分好みにデザインするデコパージュ教室を開催した。受講者は、完成のイメージに沿って、それぞれが選んだイラスト用紙とデコレーション素材を用いてワクワクしながら制作を進められた。細かい作業が多いにも関わらず全員が最後までやり遂げられ、完成した作品を見た受講者からは「キラキラして綺麗な作品ができた」、「上手に作ることができた」等、初めてのデコパージュ体験を楽しめた感想を聞くことができた。



## 将棋と囲碁のつどい

### (1) 目 的

障害のある人とない人が共に参加し、お互いが触れあい交流を深めるとともに、親睦を図り棋力の向上と積極的な社会参加を促進する。

### (2) 内 容

将棋・囲碁の自由対局

### (3) 実施回数 9回

### (4) 総 評 (参加者等延べ61人)

前年度の反省から、事業の周知・広報等を広げたことにより、新規の参加者もあったが全体的には、今年度も障害のある人の参加が少なかった。参加者は、同じ趣味を持つもの同士、和気あいあいと対局しながら、時に将棋と囲碁独特の間で次の一手を考え、真剣に向き合う様子が見られた。また、対局終了後は盤を見ながら展開を振り返り、お互いの意見を交換されていた。

参加者からは「月に1度楽しみしています」、「趣味を共有できる場として重宝しています」等の声があったものの、障害のある人とない人の交流が難しくなっていることからこの事業の展開を再検討していきたい。



## 地域文化教室

### (1) 目 的

当センターにおいて開催している文化教室を、遠隔地の障害のある方に対し、在住地近隣で開催することにより、県民サービスの均一化を図るとともに、参加者同士の交流と社会参加を促進する。

### (2) 内 容

#### ① プリザーブドフラワーアレンジメント教室

湖西福祉圏域

(湖西総合在宅サービスセンターほろん)

湖南福祉圏域(栗東ウィングプラザ)

#### ② アロマワックスサシェ教室 甲賀福祉圏域(相談支援センターろーぶ)

#### ③ 手作り教室(かんたん押絵)

大津福祉圏域(大津市立障害者福祉センター)

湖北福祉圏域(長浜市保健センターびわ分室)

湖東福祉圏域(滋賀県立視覚障害者センター)

東近江福祉圏域(近江八幡市総合福祉センターひまわり館)

### (3) 総 評 (受講者等延べ81人)

今年度は、4年ぶりに県内7圏域全てで教室を開催した。一番長く期間が空いてしまった東近江福祉圏域では、教室の再開を大変喜んでいただき、受講者からは「久しぶりの教室が意欲の火付け役になった」との手紙をいただき、今後の地域活動に弾みをつけるきっかけをつくることできた。



### 3. 更生相談事業

#### 医療相談

##### (1) 目的

障害がある人に医療の専門的な立場から、障害の状態に応じた指導・助言を行い、障害者の健康管理、機能回復および体力の維持向上および社会参加の促進を図る。

##### (2) 内容

###### ①対象者

当センターの利用者カードを所有している人で機能の維持や回復を望む人。

###### ②相談日時

原則として毎月1回、第2または第3水曜日 午後2時30分～4時30分(4枠)

###### ③実施内容

###### (ア) 予備調査

- ・相談内容の把握(申込用紙)
- ・問診による各種チェック(障害内容、既往歴、現病歴、健康状態など)
- ・相談項目、日時の決定およびスタッフへの連絡調整。

###### (イ) 健康状態の把握

体温測定や体調チェック・問診など

###### (ウ) 医療相談

- ・医師による各疾患相談、訓練内容の指導
- ・理学療法士による機能回復訓練の実技指導や日常生活での留意点などの指導

###### ④相談内容

主な相談として

- (ア) 自宅におけるリハビリ内容について
- (イ) 日常生活での体の動かし方について
- (ウ) 当センター施設(プール・トレーニング室)を利用してのリハビリ指導
- (エ) 運動時や日常生活での注意事項について

###### ⑤担当スタッフ

医師 琴浦 良彦氏(整形外科)  
理学療法士 小嶋 高広氏・井上 卓也氏  
当センター指導員、看護師



##### (3) 実施回数

9回(予定回数12回 うち2回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

##### (4) 総評(相談者等28人)

相談者には、日頃から感じている障害についての悩みや主治医に聞きづらい治療についての疑問点を医師からアドバイスを受けてもらった。また、日常生活での留意点や日頃のリハビリの内容を理学療法士に確認してもらうことができた。

相談者は少しずつ増えており、相談後は「日頃から思っていた疑問が解決できてスッキリした」、「安心してリハビリが再開できる」などの声をいただき、安心してリハビリをしてもらうことにつながった。

## 理学療法士によるリハビリ相談

### (1) 目的

理学療法士の立場から、障害の状態に応じたリハビリの指導・助言を行うことで、障害のある人の継続的なリハビリおよび自らがリハビリに取り組めるきっかけ作りとする。

### (2) 内容

- ①リハビリ実施状況の確認
- ②リハビリ内容の相談について
- ③リハビリの指導
- ④日常生活、運動についてのアドバイス

### (3) 実施回数

8回(予定回数12回 うち2回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

### (4) 総評 (相談者等14人)

相談者は、変形性股関節症、腰痛、筋力の低下の悩みが多く、日頃のリハビリ内容の確認や体調維持についての相談が多かった。また、脳血管障害の方が職場復帰後の個別のリハビリメニューや生活上の注意点、受診や検査の必要性などの指導を定期的に受けることができた。相談者からは「定期的にアドバイスを受けることでリハビリが続けられた」との声をいただき、リハビリを続けられるうえでの振り返りにもなった。



## アドバイスタイム水中歩行

### (1) 目的

水の特性を利用した水中での歩行や運動を通して、リハビリテーションの効果を高めるとともに、体力の増進と社会参加の促進を図る。

### (2) 内容

- ①理学療法士による水中でのアドバイス
- ②指導員による水中での歩行動作の確認
- ③看護師による問診およびメディカルチェック

### (3) 実施回数

19回(予定回数24回 うち4回は新型コロナウイルス感染症の影響で中止  
うち1回は大雪のため中止)

### (4) 総評 (受講者等延べ112人)

新規の受講者は少なかったが継続してリハビリをしている受講者が目立った。特に1月からは少数だったため理学療法士からのアドバイスの時間が十分確保できた。障害別では股関節障害が最も多く、重度障害・脳血管障害は少なかった。受講者からは「自己流になりやすい動きをアドバイスにより正すことができた」、「痛みが少なくなり動きやすくなった」などの感想が寄せられた。





## 理学療法士による障害別水中運動教室

### (1) 目的

理学療法士の立場から、重度障害・脳血管障害・関節障害の各障害別に応じたりハビリ指導を行い、より効果的な水中運動を身につける。

### (2) 内容

障害別による水中運動、水中ストレッチ、リラクゼーション等の指導

### (3) 実施回数

12回(予定回数15回　うち3回新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

### (4) 総評(受講者等延べ26人)

障害別水中運動では、重度障害2回、脳血管障害2回、関節障害8回の開催となった。重度障害・脳血管障害の受講者が少なかったため、関節障害に特化した障害別指導を多く開催した。

受講者からは「集団でやると他の人との違いがわかるので良い」、「情報共有ができる」、「アドバイスで重点箇所が理解できた」などの声をいただき、同じ障害のある人同士の交流や情報交換の機会にもなった。



## 地域支援　楽しく笑顔でリハビリ

### (1) 目的

地域において、パーキンソン病の人にリハビリ等を通して身近な場で交流できる機会をつくり、より充実した生活が送れることを目的とする。

### (2) 内容

リハビリレクリエーション・体操・座談会

#### ①甲賀圏域(甲賀保健所) 3回

(うち2回新型コロナウイルス感染症の影響で中止)

内容：ボッチャ　受講者等延べ：47人

#### ②高島圏域(高島保健所) 4回

内容：ボッチャ・リズム体操等　受講者等延べ：37人

### (3) 総評(受講者延べ84人)

2圏域の開催となった。甲賀圏域は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を危ぶまれたが、1回開催することができ、多くの人を受講された。受講者からは「頑張ろうと思った」、「体がスッキリした」との感想が寄せられた。高島圏域では、参加人数は少なかったものの4回開催することができた。受講者にとって身近な場所で身体を動かすことや交流する機会が持てた。



## 4. 養成・研修事業

### 健康と体に関する学習会

#### (1) 期 日

第1回目 令和4年11月 3日(木・祝)

第2回目 令和5年 1月 9日(月・祝)

第3回目 令和5年 2月23日(木・祝)

#### (2) 受講者人数等 延べ32人

#### (3) 目 的

中高年者の健康の維持増進につなげるためにからだに関する知識を学び、日常の生活を見直し、自身の健康について振り返り、実践につなげる。

#### (4) 内 容

第1回目：バランスよく食べることと腸内環境を整える食事について

講師：管理栄養士 市木 圭子氏

##### 第1回目評価

講義後のグループワークでは、「日常で行っている工夫」をテーマに情報を共有し、受講者一人ひとりが気づきの多い学習会になった。



第2回目：歯・口と生活習慣病について

講師：大津市民病院 歯科口腔外科

歯科衛生士 山本 伸子氏

##### 第2回目評価

「歯の健康と生活習慣病との結びつき」と「オーラルフレイル」を中心とした講義内容で、受講者からは、特に歯周病予防についての質問が多く、関心の高さが伺えた。



第3回目：心の健康を保つためのストレスとの付き合い方について

講師：県立精神医療センター 地域生活支援部

主幹(兼) 社会復帰支援係長 加藤 郁子氏

##### 第3回目評価

日々のストレスへの対処法を受講者の意見を交えた形で講義をしていただいた。また、エゴグラムを用いた自己分析を通して、自分自身を見つめなおしてもらった機会にもなった。



#### (5) 総 評

各回の内容が深く結びつくようにテーマを設定したことで、受講者には高い関心を持ってもらうことができた。

受講者からは「いろいろなことが知れてよかった。特に自分のことがよく分かった」、「わかりやすく、具体的な内容でとても良かった」との感想が寄せられ、自身の生活を見直すきっかけになった。

## 障害に関する学習会

### (1) 期 日

第1回目 令和4年6月26日(日)

第2回目 令和5年3月18日(土)

### (2) 受講者人数等 延べ44人

### (3) 目 的

地域において障害のある人と関わる人達が、「障害」についての理解を深めることにより、より良い共生社会の構築に寄与するために開催する。

### (4) 内 容

第1回目：「障害の理解と支援 ～知的・発達障害について～」

講師：社会福祉法人びわこ学園

びわこ学園医療福祉センター野洲

心理判定員 石井 裕紀子氏

#### 第1回目評価

改めて「知的障害・発達障害」の概要理解をし、その上で障害が故の行動面の理解につなげる趣旨の講義をしていただいた。受講者は、個々に普段関わる方を想像しつつ耳を傾け、講義後には具体的な質問が多く見られた。



第2回目：「肢体不自由について ～パラスポーツをとおして～」

講師：学校法人藍野大学

びわこリハビリテーション専門職大学

准教授 安田 孝志氏

#### 第2回目評価

パラスポーツをとおして肢体不自由について、具体的にイメージすることができるよう講義いただいた。また、講師自身のパラスポーツアスリートとしての貴重な経験を聞くこともでき、受講者も聞き入っておられた。



### (5) 総 評

「障害」自体を改めて理解することで、障害者を支える人の裾野を広げることが、本事業の大きな目的である。今後も様々な障害を取り上げることで、障害のある人にとってより良い共生社会の実現への一助としたい。

## 登録ボランティア

(1) 令和4年度 ボランティア登録状況 登録者数59人 (更新47人 新規12人)

(2) 行事開催事業協力人数一覧 延べ 全83人

事業名	協力人数
オープンアリーナ	7人
お楽しみ縁日	19人
レッツイベント!	16人
障害者啓発イベント 清掃	12人
クリスマスイベント	10人
水泳記録会	11人
ボッチャ交流大会	8人

(3) スポーツ指導事業・文化教養向上事業・養成事業協力人数一覧

スポーツ指導事業 延べ 全101人

事業名	協力人数
アクアビクス	1人
チャレンジボッチャ	11人
グラウンドゴルフ定例会	22人
リズムでダンス	3人
大人の体の使い方&スイム	6人
親子水泳	5人
卓球ラリータイム	42人
STTラリータイム	1人
水泳選手育成	3人
体力測定・トレーニングアドバイス	7人

文化教養向上事業 延べ 全36人

事業名	協力人数
茶道教室①	11人
茶道教室②	10人
フラワーアレンジメント教室	8人
ガーデニング教室	3人
手作り体験教室(押し花)	1人
お正月生け花教室	3人

養成事業 延べ 全26人

事業名	協力人数
障害に関する学習会	26人

## 5. 共催事業

### バスケットボール強化練習会

(1) 目 的

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けた選手の育成と強化を行う。

(2) 協 力

一般社団法人 滋賀県バスケットボール協会

(3) 内 容

準備・補強運動：ストレッチ・柔軟・ダッシュ等

基本練習：シュート、ドリブル、レイアップフリースロー、3メンなど

応用練習：オールコート(3対2、4対3) ドリブルなし(4対4、5対5)、ミニゲーム等

(4) 実施回数 4回(予定回数5回 内1回は交流大会と重なり中止)

(5) 総 評 (受講者等延べ102人)

2025年に滋賀県で開催される『第24回全国障害者スポーツ大会』に向けて、前年度県大会に出場したチームに所属している選手の強化と育成、滋賀県全体の底上げを図るために開催した。

普段はそれぞれのチームで練習している選手が集まり、滋賀県代表チームの練習を行うことで、普段と違う緊張感の中で集中して練習に取り組んでいた。

また、近畿大会前に強化練習会を行うことで、チームとしてのモチベーションと絆が強くなり、チーム一丸となって大会に向かうことができた。

次年度も継続して開催し、滋賀県のバスケットボールの育成と強化を図りたい。



### パーキンソン病リハビリ大会

(1) 期 日 令和4年7月3日(日)(4回会議実施)

(2) 参加人数等 延べ65人

(3) 目 的

自宅に閉じこもりがちになるパーキンソン病の人にリハビリに関する専門的な指導や助言を行い、レクリエーションを楽しみ仲間同士が交流を深めることで社会参加の促進を図る。

(4) 協 力

全国パーキンソン病友の会滋賀県支部

滋賀県難病相談支援センター

滋賀病院 医師 川合 寛道氏

あんどうクリニック 理学療法士 石野 賢氏

(5) 内 容

ボッチャ・卓球・リハビリ相談・パーキンソン体操等

(6) 総 評

参加者を新型コロナウイルス感染症のワクチン3回接種者に限定して開催した。立ち上がり動作や歩行などの日常生活動作に関すること、話す・食べるなど口に関することについてのリハビリ相談は大変人気が高かった。また、卓球やボッチャでは、楽しく体を動かしてもらうことができた。

医師への質問時間には、参加者から多くの質問が寄せられた。



## 6. 自主事業

### (1) 目的

障害者福祉センターの設置目的に合致し、かつ管理業務の実施を妨げない範囲において障害者スポーツの振興と健康増進を図る。

### (2) 内容

#### ①個別サポート

事業名	期間	延受講者数
水泳個別アドバイス	通年	1人

#### ②バックアップ教室

事業名	回数	延受講者数
タイムトライアル	3回	15人

#### ③地域支援 障害者スポーツ福祉体験指導事業

実施日	依頼先	内容	人数
令和4年4月27日	草津市立発達支援センター 湖の子園	介助方法と水泳指導の基本	17人
令和5年2月16日	学校法人聖パウロ学園 光泉カトリック中学校	ボッチャ	70人
			計 87人

## 7. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

### 施設の利用制限等

#### 一般有料者の利用中止、運動施設の新規予約一時停止

- ・令和4年7月21日(木)～9月30日(金)  
(滋賀県内の急激な感染者拡大のため)

### 入館時の対策

- ・出入口を正面玄関のみ
- ・入館前の検温、体調チェック(発熱、風邪症状、濃厚接触者等の該当の有無について)、手指消毒
- ・受付時に介助者または障害のない人は「情報提供用紙」を提出  
※12月1日(木)～廃止
- ・団体利用者は、事前に提出済みの団体者名簿に沿って体調等をチェック  
※12月1日(木)～廃止

### 事業・教室実施上の対策

- ・マスク着用、手指消毒、密接、密着の回避、換気の徹底、道具の専有使用等の感染症対策を講じたうえで開催
- ・各事業・教室の実情に合った有効と考えられる対策を実施

### 施設管理上の対策

#### 【三密の回避】

- ・プールの団体および教室専用時間と個人利用時間を分けて設定
- ・施設毎の利用人数の制限
- ・トレーニング室内の機器の間引きと飛沫防止シート設置
- ・館内椅子の間引きおよびキッズスペースの撤去
- ・施設のテレビ視聴・図書閲覧の中止
- ・更衣室内のシャワー使用禁止

#### 【衛生・消毒に関すること】

- ・アクリル板の設置
- ・ハンドドライヤーの使用禁止
- ・ウォータークーラーの使用禁止
- ・貸出物品の制限(消毒できない物)
- ・備品等使用後の消毒
- ・館内での食事制限

#### 【その他】

- ・プールカレンダーを作成し、利用可能日を明示
- ・ポスターによる感染防止啓発
- ・利用者の学校や職場等所属先が閉鎖中の場合は利用不可
- ・職員の体調管理の徹底(検温後の出勤・食事場所の分散や黙食等)

## 8. お客様アンケート調査

アンケート実施期間：令和4年7月26日（火）～9月19日（月・祝）

※10月5日（水）～10月16日（日） 一般利用者のみ実施

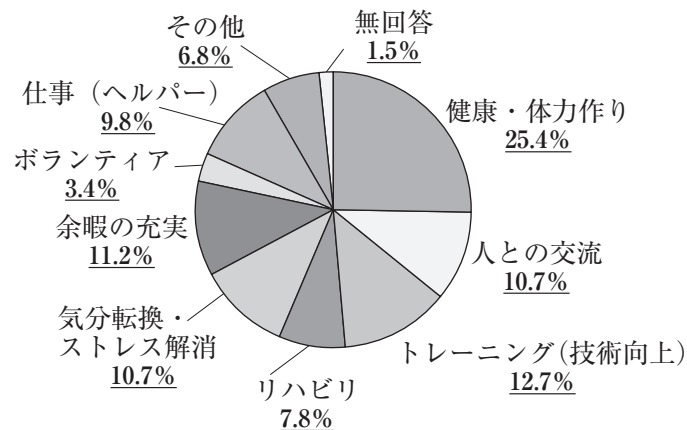
回答件数111件

当センターが行っているスポーツ・文化等の事業や受付窓口の対応などのサービスについて、利用者の皆様から評価やご意見をいただき、より良い施設運営とサービスの向上に努めることを目的として「お客様アンケート調査」を実施した。

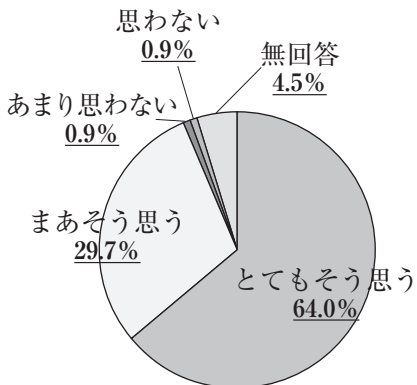
### 1. 回答者の属性

①性別	男性	43人	女性	67人	答えたくない	1人	無回答	0人				
②年齢	20歳未満	5人	20歳以上	10人	30歳代	23人	40歳代	19人	50歳代	12人	60歳代	21人
	70歳代	20人	80歳以上	1人	無回答	0人						
③障害区分	視覚	7人	聴覚	2人	肢体	24人	内部	3人	知的	17人	精神	4人
	情緒	1人	介助者	38人	一般	14人	その他	5人	無回答	1人		
④使用する施設	アリーナ	40人	小アリーナ	26人	プール	55人	トレ室	13人	会議室	7人	和室	1人
	射場	3人	その他	8人	無回答	2人						
⑤時間帯	午前	51人	午後	56人	夜間	26人	無回答	3人				
⑥頻度	ほぼ毎日	0人	週1～2	39人	月1～2	39人	その他	30人	無回答	3人		

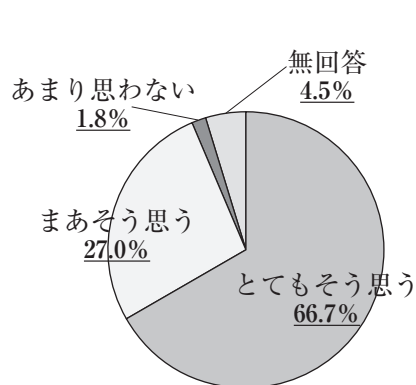
### 2. 当センターを利用する目的をお聞かせください。（複数回答可）



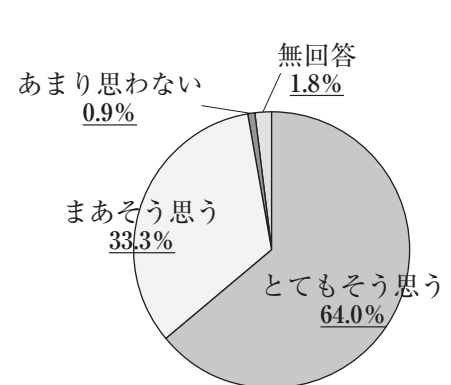
### 3. 職員について



①受付での施設の利用方法等に関する説明・対応は分かりやすい



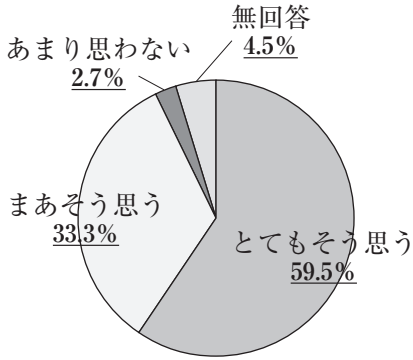
②各施設における職員の対応や指導は分かりやすい



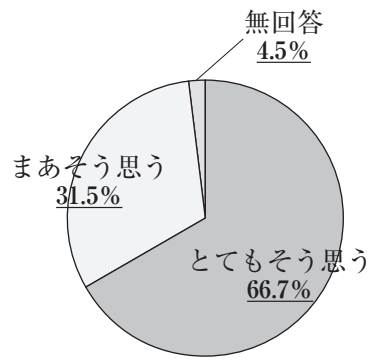
③利用者の個人情報は守られている



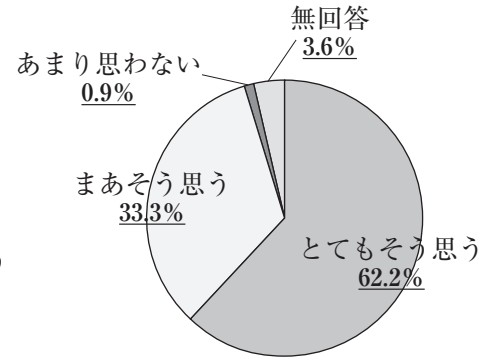
#### 4.施設環境について



①館内は使いやすく整備されている

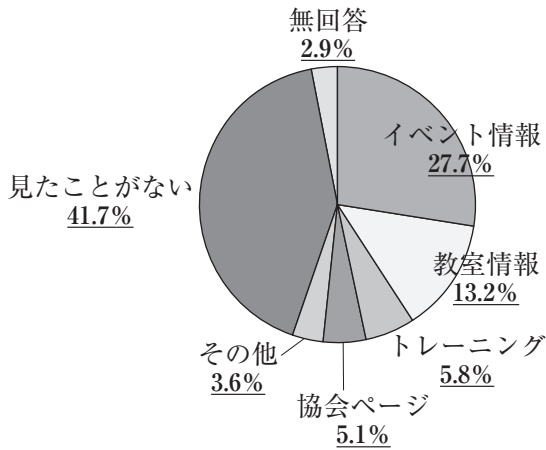


②館内は清潔に保たれている

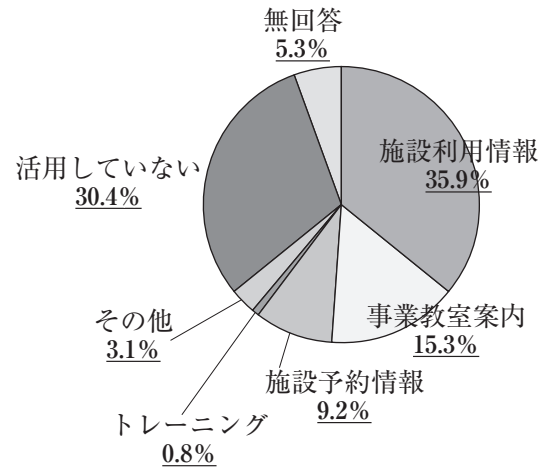


③館内の掲示物は見やすく整理されている

#### 5.広報誌「県身協」及び当センターホームページについて

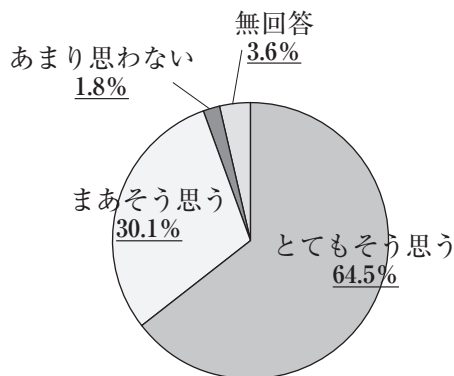


①「県身協」のどの記事を見えていますか？



②ホームページについて、どのように活用されていますか？

#### 6.総合的評価について



①当センターは良いサービスを提供している

#### 総 評

アンケート調査の結果については、ほとんどの設問項目で高い評価をいただいた。今後もより多くの方々にご満足いただけるよう、各設問項目の理由に記載されたご意見等を踏まえて検討し、サービス改善ならびに向上に一層取り組んでいきたい。

## 9. 広報・啓発事業

### 広報・啓発

#### (1) 目的

障害者団体をはじめ、行政機関、施設利用者ならびに施設見学者等に対し、当センターの概要や事業内容等について周知を図る。

#### (2) 内容

##### ①印刷物

- ・「センターだより」年4回各 7,700部
- ・「令和3年度年報」 200冊
- ・「事業案内ポスター」B2 300枚
- ・「事業案内チラシ」A4 13,000枚
- ・「利用カレンダー」ポケットサイズ 3,000枚
- ・「点字版 利用カレンダー」 15部
- ・「音声版 利用カレンダー」 15部
- ・「点字版 事業案内チラシ」 15部
- ・「音声版 事業案内チラシ」 15部
- ・「点字版 利用者アンケート」 10部
- ・「音声版 利用者アンケート」10部

##### ②広報

行事、教室、事業等のお知らせや受講者の募集を広く県民等に周知するため、県・市町広報誌、各新聞紙面等に登載依頼をした。また、当センターの概要や施設の予約状況等最新の情報と新たに「令和3年度年報」をホームページに掲載し、音声読み上げソフトに対応できるよう改修した。なお、新型コロナウイルス感染症に伴うセンターの利用制限や事業、教室の変更等についてもホームページや館内への掲示等で周知に努めた。

##### ③情報提供

来所者のふれあいの場(ラウンジ)に月刊誌や季刊誌等を常備し、福祉情報等を提供していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により、書棚を封鎖した。館内はWi-Fi環境を整備し、情報入手の利便性を高めた。

##### ④広聴

事業ごとにアンケート等を取り、広く意見を求めた。

##### ⑤渉外活動

県内関係機関へ出向き、作成したチラシを配布し、周知を図った。

- ・滋賀県庁障害福祉課、スポーツ課、国スポ/障スポ大会課
- ・滋賀県立リハビリテーションセンター
- ・県内保健所(7か所)
- ・滋賀県立精神医療センター
- ・滋賀県立小児保健医療センター
- ・県内市町障害福祉担当課(19市町)
- ・特別支援学校(16学校)
- ・県内市町社会福祉協議会
- ・県内市町支所障害福祉担当課
- ・県内市町教育委員会(19市町)
- ・県内市町療育センター
- ・滋賀県立視覚障害者センター
- ・滋賀県障害者スポーツ協会
- ・彦根子ども家庭相談センター
- ・滋賀県スポーツ協会
- ・草津市立障害者福祉センター
- ・大津市立障害者福祉センター 等

## 10. 運営会議等

### (1) 福祉センター運営協議会

滋賀県立障害者福祉センターの効率的な運営を図るため、指定管理者である公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会会長は、障害者団体や関係団体、関係行政機関等から選出された委員で構成される「滋賀県立障害者福祉センター運営協議会」を設置している。

#### 運営協議会委員

選出母体	役職名	委員氏名
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	会長	大西 孝雄
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	副会長	新田 正紘
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	理事長	崎山美智子
社会福祉法人滋賀県障害児協会	法人本部長	大瀧 幸夫
社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会	会長	大橋 博
一般社団法人滋賀県ろうあ協会	専従職員兼理事会事務局次長	野田 淳子
特定非営利活動法人滋賀県脊髄損傷者協会	理事長	前野 奨
特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会	理事	駒阪 博康
障害者の生活と権利を守る滋賀県連絡協議会	副会長	海藤 尚武
社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会	福祉用具センター技術係長	谷 佳代
一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会	会長	倉谷 義数
滋賀県児童成人福祉施設協議会	理事	吉田 和浩
滋賀県特別支援教育研究会	部会長	細谷亜紀子
滋賀県高等学校等教育研究会特別支援教育研究部会	草津養護学校長	稲葉 芳子
滋賀県立リハビリテーションセンター	事業推進係長	田所 愛理
滋賀県立精神医療センター	地域生活支援部・社会復帰支援係 係長	加藤 郁子
滋賀県立むれやま荘	副所長	浦田 等流

#### 運営協議会開催状況

開催年月日	審議事項
令和4年9月27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度運営状況について</li> <li>・第4期指定管理実施状況について</li> <li>目玉事業、新型コロナウイルス感染症対策とその影響、施設利用状況</li> <li>お客様アンケート調査結果について</li> <li>・施設管理運営状況について</li> <li>施設設備の工事について</li> </ul>

### (2) 福祉センター第三者委員会

公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が運営する滋賀県立障害者福祉センターで、提供する福祉サービスにおける利用者およびその家族等からの苦情に対し、社会性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な解決・改善に努めるため、第三者委員を設置している。

#### 第三者委員

機関・団体	役職名	委員氏名	
同志社大学	中立的立場	助教	河西 正博
公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	事業者代表	監事	太田千恵子
公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	利用者代表	理事長	崎山美智子

#### 第三者委員会開催状況

開催年月日	審議事項
令和5年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度苦情、意見等の対応状況について</li> <li>・「お客様アンケート調査」の結果について</li> </ul>

## 11. 研修状況等

### (1) 研修受講等

- ①資格取得：公認トレーニング指導士1名・公認スポーツプログラマー1名・  
甲種防火管理者1名

研 修 名	実施月	主 催 者	受講者数
職員研修 A E D・人工呼吸	5月	当センター	15人
職員研修 水泳介助者研修	5月	当センター 業務課	5人
職員研修 水泳介助者研修	6月	当センター 業務課	7人
職員研修 消防訓練	6月	当センター	15人
職員研修 水泳研修	6月	当センター 業務課	5人
職員研修 水泳介助者研修	7月	当センター 業務課	7人
公認トレーニング指導士養成講習会	7月	日本スポーツ施設協会	1人
職員研修 救急(熱中症) シュミレーション	8月	当センター	14人
職員研修 サイバーセキュリティー対策	9月	当センター	16人
甲種防火管理再講習	10月	(一財)日本防火・防災協会)	1人
職員研修 地震訓練(グラドン号)	11月	当センター	16人
職員研修 水泳研修	11月	当センター 業務課	8人
全国障害者スポーツセンター連絡協議会	11月		3人
職員研修 水泳介助者研修	12月	当センター 業務課	8人
職員研修 個人情報保護法	1月	当センター	13人
職員研修 実技研修(ボッチャ)	1月	当センター	16人
職員研修 パワハラ防止法研修	2月	当センター	19人
生涯スポーツ体力づくり全国会議	2月	日本スポーツ施設協会	1人
公認スポーツプログラマー養成講習会	2月	日本スポーツ施設協会	1人
職員研修 消防訓練	3月	当センター	17人
職員研修 水泳研修	3月	当センター 業務課	6人

21件 延べ 194人

### ②県障害者スポーツ協会事業への派遣

内 容・場 所	期 日	人 数
滋賀県障害者スポーツ大会 水泳競技(当センター)	10月2日	2人

### ③全国障害者スポーツ大会(栃木県)

合宿・練習会・大会に陸上競技役員コーチとして1人派遣

### (2) 研修生(実習)の受け入れ状況

#### 目 的

実習は、実習生が当センターの機能および施設利用者のもつニーズに関して理解を深めるとともに、必要とする知識および実践の方法を習得し、もって障害者福祉の増進に寄与する。

※新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、両大学から実習中止の連絡を受け中止した。

【実習を予定していた大学】

- ・びわこ成蹊スポーツ大学 インターンシップ実習
- ・滋賀医科大学 早期体験学習・早期体験実習…Web授業のみ実施

## Ⅱ クラブ活動

クラブ数 14

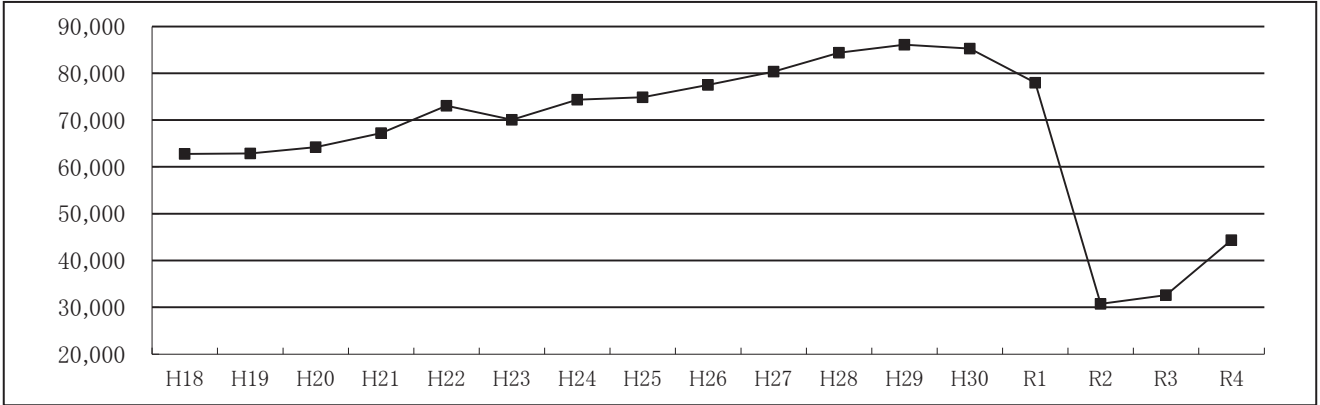
登録クラブ名	センターでの主な活動内容
輪悠会（股関節障害者 水泳）	金曜日の午前練習
トップシャトル滋賀（バドミントン）	土曜日・日曜日・祝祭日の夜間練習 大会及び交流会を主催
LAKE SHIGA BBC(車椅子バスケットボール)	水曜日の夜間練習 近畿リーグ及び各大会参加
滋賀県ろうあ協会 卓球部	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀県H I T T Oアーチェリークラブ	土曜日・日曜日・祝祭日の午前練習 各大会参加・大会主催
I N F I N I (車いすツインバスケットボール)	金曜日の夜間練習
滋賀車いすテニスクラブ	土曜日の夜間練習 各大会参加
滋賀県障害者フライングディスク協会	火曜日・金曜日の夜間練習 大会及び講習会主催
レイク・イーグルス（電動車椅子ホッケー）	金曜日の夜間練習 交流試合実施
びわこ卓球クラブ	月1回土曜日の午後練習 大会主催
グローバルハート（球身動）	木曜日の夜間練習 演武会開催
ホワイトドラゴンズ (精神障害者ソフトバレーボールクラブ)	土曜日の夜間練習 各大会参加
ライトニング滋賀（ボッチャ）	木曜日の夜間練習 各大会参加
M. S. T（車椅子卓球）	火曜日・水曜日・土曜日・日曜日の夜間練習 各大会参加

# Ⅲ 利用状況

## 概要

令和4年度の当センター利用は、開所日281日で延べ人数44,341人となり、延べ累計人数は2,047,626人となった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための規制も3年目に入り、脱コロナを見据え基本的な感染予防をしながら緩和した部分もあり、利用者数は少しだけ回復したがコロナ前と比べるとまだ半分程度しか戻っていない。

## 年度別利用者数



年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数	年度	年間利用者数
H2	29,454人※1	H11	65,934人	H20	64,231人	H29	86,091人
H3	54,302人	H12	65,877人	H21	67,227人	H30	85,248人
H4	57,264人	H13	62,747人	H22	73,063人	R1	77,991人※3
H5	54,889人	H14	60,325人	H23	70,035人	R2	30,770人※3
H6	52,373人	H15	61,378人	H24	74,331人	R3	32,591人※3
H7	53,751人	H16	60,179人	H25	74,897人	R4	44,341人※3
H8	48,350人※2	H17	64,297人	H26	77,487人		
H9	52,743人	H18	62,770人	H27	80,350人		
H10	55,086人	H19	62,867人	H28	84,387人		

※1 開所月（8月）からの利用人数

※2 病原性大腸 O-157 感染防止のためプール閉鎖

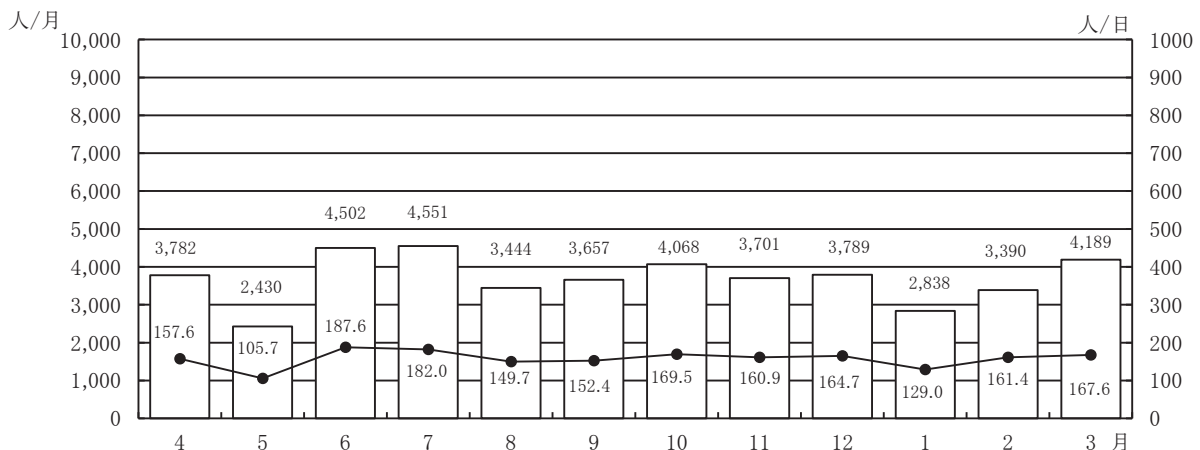
※3 新型コロナウイルス感染症による臨時閉所や利用制限

## 月別延利用状況および1日平均利用者数

利用状況は、新型コロナウイルスの影響によりコロナ前（平成30年度）と比べ52.0%にとどまっている。

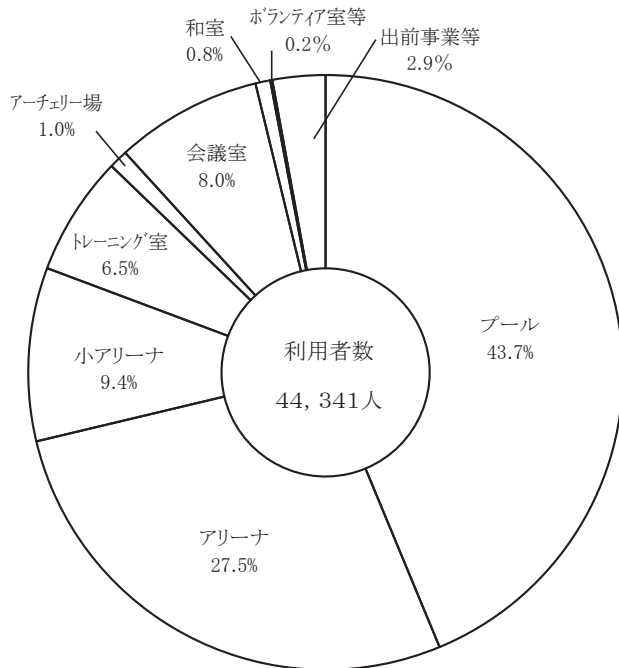
今年度は、コロナウイルスの感染状況に連動して増減している傾向はあるが、全体的に平均して利用があった。

最も多い月は、7月の4,551人、最も少ない月は5月の2,430人（5月11日から5月29日まで工事のためプールのみ閉鎖）となっている。また、1日当たりの平均利用者は、年平均で157.8人、6月が最高の187.6人となっている。



## 施設別利用状況

施設利用状況を見ると、プール 19,394人(43.7%) が最も多く、アリーナ 12,209人(27.5%)、小アリーナ 4,180人(9.4%) の順となっている。これを個人・団体別にみると、個人利用では、プール 12,722人(80.1%)、トレーニング 2,857人(18.0%)、となり、団体では、アリーナ 12,186人(44.8%)、プール 6,672人(24.6%)、小アリーナ 4,173人(15.4%) の順となっている。

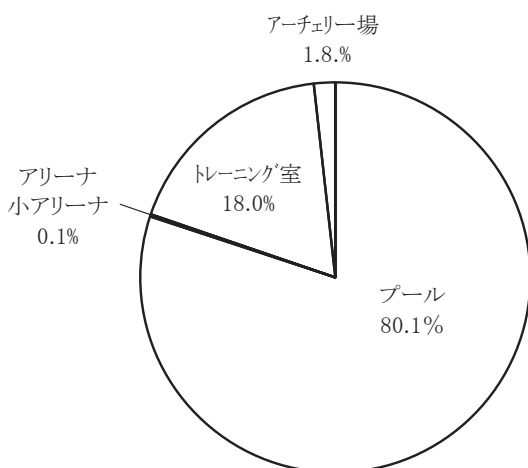


(単位：人)

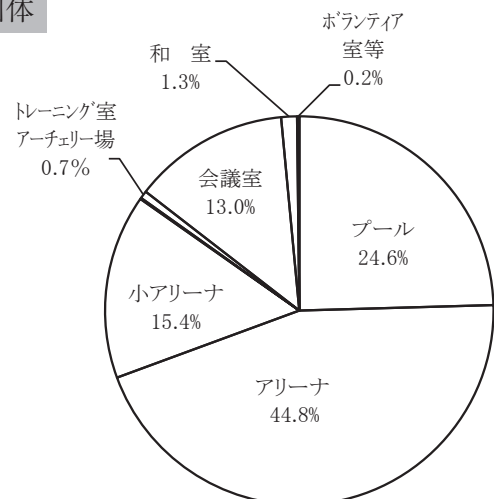
施設	利用者数	利用割合
プー ル	19,394	43.7%
ア リ ー ナ	12,209	27.5%
小 ア リ ー ナ	4,180	9.4%
ト レ ー ニング 室	2,884	6.5%
ア ー チェ リ ー 場	455	1.0%
会 議 室	3,538	8.0%
和 室	357	0.8%
ボ ラン ティ ア 室 等	50	0.2%
出 前 事 業 等	1,274	2.9%
合 計	44,341	100.0%

## 個人、団体別利用状況

### 個人



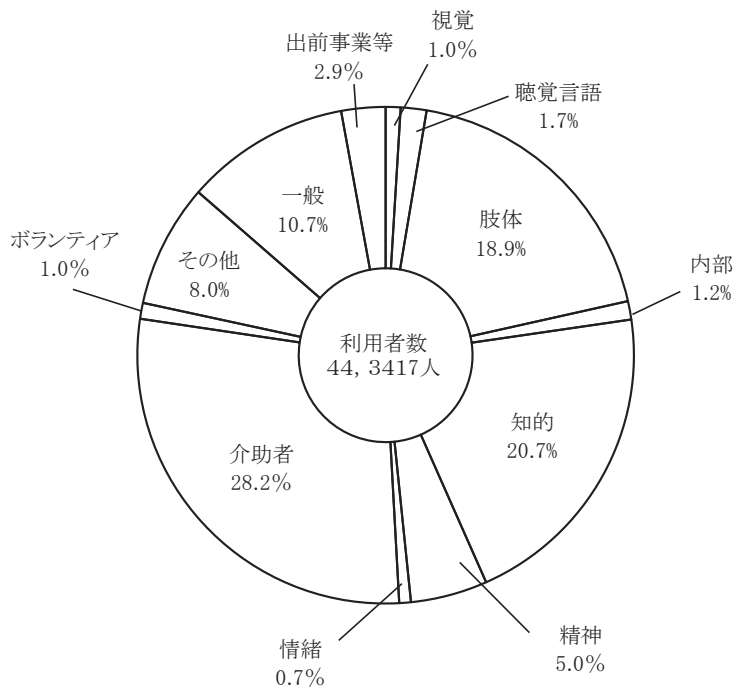
### 団体



(単位：人)

	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング室	アーチェリー場	会議室	和室	ボランティア室等	合計
個人	12,722	23	7	2,857	281	0	0	0	15,890
団体	6,672	12,186	4,173	27	174	3,538	357	50	27,177

## 障害別等利用状況

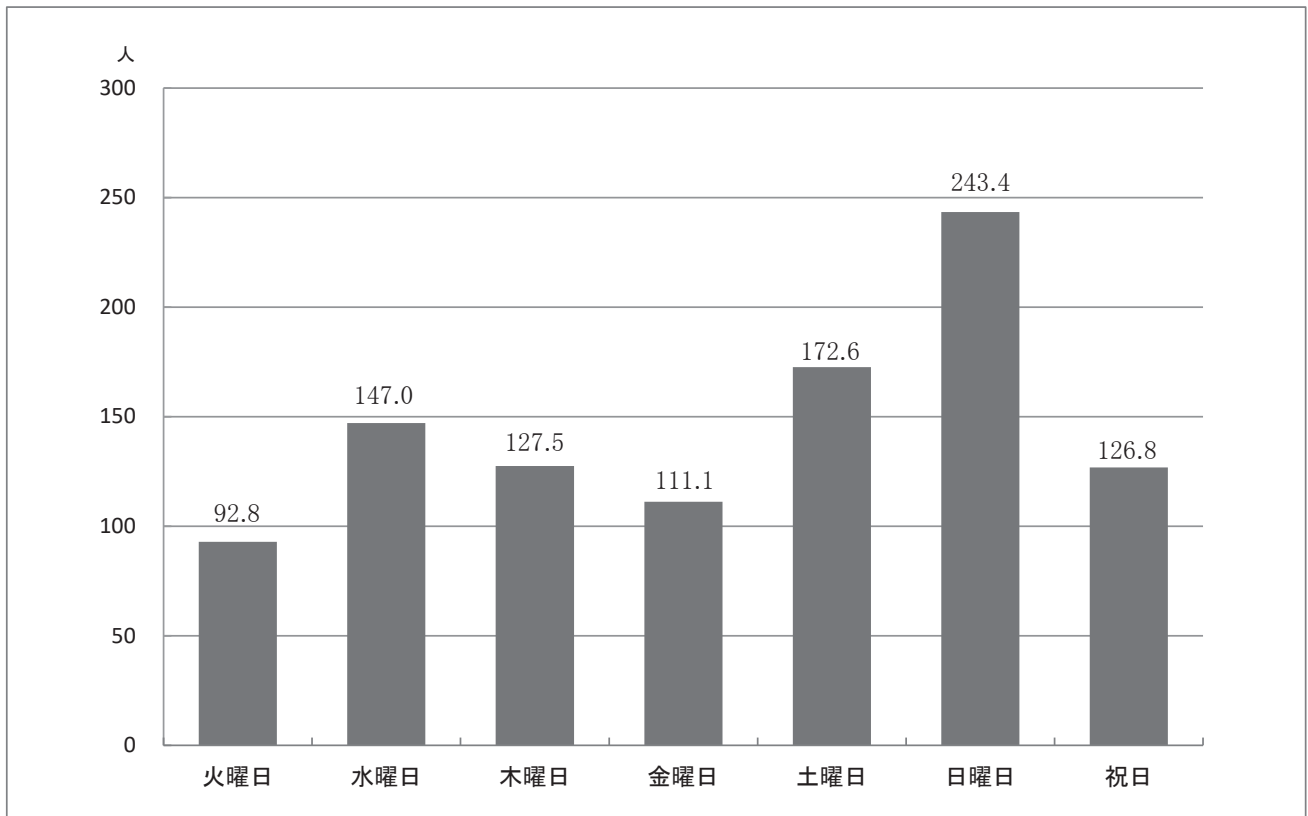


(単位：人)

障害等	利用者数	利用割合
視覚	429	1.0%
聴覚言語	744	1.7%
肢体	8,362	18.9%
内部	531	1.2%
知的	9,163	20.7%
精神	2,219	5.0%
情緒	335	0.7%
介助者	12,514	28.2%
ボランティア	459	1.0%
その他	3,555	8.0%
一般	4,756	10.7%
出前事業等	1,274	2.9%
合計	44,341	100.0%

## 曜日別利用状況

曜日別の1日当たりの平均利用状況を見ると、日曜日243.4人、土曜日172.6人となっている。





地域別・障害別利用状況(実人数)

障 害	個 人 利 用												貸 切 り 利 用							合 計						
	大 津 市	彦 根 市	長 浜 市	近 江 八 幡 市	草 津 市	守 山 市	栗 東 市	野 洲 市	湖 南 市	甲 賀 市	高 島 市	東 近 江 市	米 原 市	湖 東	小 計	県 外	小 計	学 校 施 設	障 害 者 団 体		登 録 ク ラ ブ	セ ン タ ー 主 権	行 政	そ の 他	一 般	小 計
視 覚	9	0	0	0	58	6	86	72	0	3	0	0	0	0	234	0	234	2	91	0	72	4	0		169	403
聴覚言語	12	0	0	57	30	0	3	0	0	22	0	0	0	0	124	1	125	5	301	156	89	1	0		552	677
肢 体	1,803	0	37	1	927	185	448	8	195	17	8	33	0	2	3,664	45	3,709	311	1,121	1,741	944	3	0		4,120	7,829
内 部	197	0	0	0	68	54	48	0	0	12	0	1	0	0	380	3	383	0	45	13	82	0	0		140	523
知 的	1,695	1	0	62	1,561	257	347	107	27	269	3	3	0	2	4,334	4	4,338	1,373	1,194	312	1,309	0	0		4,188	8,526
精 神	409	5	1	0	401	71	182	47	0	12	0	0	1	0	1,129	6	1,135	688	105	158	116	0	0		1,067	2,202
情 緒	40	0	0	0	14	0	21	0	0	0	0	0	0	0	75	0	75	213	2	11	12	0	0		238	313
介 助 者	1,676	0	0	58	1,507	326	492	172	72	266	5	4	1	4	4,583	5	4,588	1,680	1,810	1,802	1,545	7	0		6,844	11,432
ボランティア	83	0	0	0	22	0	38	0	0	0	0	0	0	0	143	1	144	0	4	2	247	0	0		253	397
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	218	1,045	55	676	367	211		2,572	2,572
一 般															1,159		1,159								2,502	3,661
合 計	5,924	6	38	178	4,588	899	1,665	406	294	601	16	41	2	8	15,825	65	15,890	4,490	5,718	4,250	5,092	382	211		22,645	38,535

## 月別・施設別利用状況

(単位：人)

施設	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延人数	月平均
プー ル	1,911	509	1,907	1,965	1,614	1,604	1,866	1,634	1,593	1,374	1,527	1,890	19,394	1,616
ア リ ー ナ	1,084	911	1,258	1,064	913	1,129	1,155	978	1,162	671	843	1,041	12,209	1,017
小アリーナ	328	362	524	559	313	289	300	307	290	229	312	367	4,180	348
トレーニング室	234	296	274	261	172	199	227	213	213	249	269	277	2,884	240
アーチェリー場	52	91	44	31	32	33	71	26	3	0	8	64	455	38
会 議 室	154	215	378	536	353	237	351	276	319	176	167	376	3,538	295
和 室	19	8	52	84	14	47	23	39	26	6	23	16	357	30
ボランティア室等	0	0	20	9	0	13	8	0	0	0	0	0	50	4
医 務 室	197	97	228	247	197	204	208	162	155	175	193	241	2,304	192
計	3,782	2,430	4,502	4,551	3,444	3,657	4,068	3,701	3,789	2,838	3,390	4,189	44,341	3,695
出前事業等	0	38	45	42	33	106	67	228	183	133	241	158	1,274	
開所日数	24	23	24	25	23	24	24	23	23	22	21	25	281	
日 平 均	157.6	105.7	187.6	182.0	149.7	152.4	169.5	160.9	164.7	129.0	161.4	167.6	157.8	

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

自主事業は区分なしであるため合計に計上している

## 施設別・障害別利用状況

(単位：人)

場所 障害	プール	アリーナ	小アリーナ	トレーニング 室	アーチェリー 場	会議室	和 室	医務室	ボランティア 室等	合 計	構成比 (%)	月平均	
視 覚	234	38	112	25	0	18	2	72	0	429	1.0%	36	
聴覚言語	122	285	117	16	87	93	21	1	3	744	1.7%	62	
肢 体	2,898	2,678	657	1,231	234	596	43	1,809	25	8,362	18.9%	697	
内 部	301	36	33	106	1	52	0	111	2	531	1.2%	44	
知 的	5,219	2,155	972	506	0	284	26	245	1	9,163	20.7%	764	
精 神	805	831	198	348	0	36	0	59	1	2,219	5.0%	185	
情 緒	94	225	7	0	0	5	4	0	0	335	0.7%	28	
介助者	5,729	3,820	1,649	647	80	508	78	2	3	12,514	28.2%	1,043	
ボランティア	171	138	37	0	0	113	0	0	0	459	1.0%	38	
その 他	284	907	313	0	20	1,833	183	0	15	3,555	8.0%	296	
一 般	3,537	1,096	85	5	33	0	0	5	0	4,756	10.7%	396	
計	19,394	12,209	4,180	2,884	455	3,538	357	2,304	50	44,341	100.0%	3,695	
										出前事業等	1,274	2.9%	

自主事業は区分なしであるため合計に計上している

(注) 合計には、医務室の利用人数を含まない。

## 月別・障害別利用状況

(単位：人)

月 障害	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
視 覚	28	24	68	35	34	42	45	23	30	23	47	30	429
聴覚言語	63	63	54	104	80	56	39	41	46	67	49	82	744
肢 体	679	502	999	780	532	733	748	686	559	549	643	952	8,362
内 部	37	23	58	60	46	45	45	23	34	51	49	60	531
知 的	586	495	892	1,171	817	756	847	785	690	585	721	818	9,163
精 神	173	151	243	233	184	245	232	159	146	133	139	181	2,219
情 緒	7	6	21	27	15	57	37	58	25	19	36	27	335
介助者	903	686	1,319	1,493	958	1,125	1,219	1,070	829	784	928	1,200	12,514
ボランティア	12	12	45	46	11	47	33	62	50	35	39	67	459
そ の 他	125	106	582	414	246	445	476	261	370	196	192	142	3,555
一 般	1,169	324	176	146	488	0	280	305	827	263	306	472	4,756
計	3,782	2,430	4,502	4,551	3,444	3,657	4,068	3,701	3,789	2,838	3,390	4,189	44,341
出前事業等	0	38	45	42	33	106	67	228	183	133	241	158	1,274

自主事業は区分なしであるため合計に計上している

## 曜日別・月別利用者状況

(単位：人)

月 曜日	火	水	木	金	土	日	祝	出前事業等	計
4	251	608	459	297	742	1,323	102	0	3,782
5	124	193	205	214	464	890	302	38	2,430
6	197	922	650	510	863	1,315	0	45	4,502
7	277	604	535	643	1,049	1,219	182	42	4,551
8	284	684	467	339	619	906	112	33	3,444
9	210	341	571	398	583	1,274	174	106	3,657
10	202	573	544	446	926	1,181	129	67	4,068
11	357	638	314	392	761	810	201	228	3,701
12	257	512	525	419	587	1,306	0	183	3,789
1	219	178	459	381	619	760	89	133	2,838
2	205	580	410	376	564	678	336	241	3,390
3	202	636	727	586	854	751	275	158	4,189
計	2,785	6,469	5,866	5,001	8,631	12,413	1,902	1,274	44,341
開所日数	30	44	46	45	50	51	15		281
一日平均	92.8	147.0	127.5	111.1	172.6	243.4	126.8		157.8

## Ⅳ 利用者 と 支える 人 の 声

### 「福祉センターとともに歩んだ歴史」

矢野 智孝

「Take your mark ピー」スタートの合図と同時に一斉に時間が動きだし無我夢中で泳ぎ続けました。

私はこの度、第22回障がい者スポーツ大会いちご一会栃木大会に競泳の滋賀県代表として出場しました。私がプールを始めたのは平成24年からでした。平成23年8月に脳出血で倒れその影響で右半身麻痺になり、翌年4月にリハビリの過程で福祉センターのプールに通い始めたので、福祉センターとはもう11年の付き合いとなります。この11年で、結婚して、子供ができ、今では子供も福祉センターのプールのお世話になっています。泳ぎの調子の良い時や優れない時、さまざまな私の成長を福祉センターは見守ってくれました。私のプールの歴史は福祉センターとともにあるのです。

また、忘れてはいけないのが職員の皆様方への感謝の気持ちです。施設の維持管理や事故防止など私たちが安全に施設を使用できるよう努めてくださっているだけでなく、私が福祉センターに赴けば気さくに声をかけていただくなど、人との関わりも大切にしてくださりとても有り難く感じています。こうして日々安心して練習ができるのも職員さんのサポートのお陰です。本当にありがとうございます。

再来年には滋賀県で国スポ・障スポ大会が開催されます。その際に滋賀県代表として選出されるよう日々精進していきたいと思っております。そのためには福祉センターのお力が必要だと思っています。これからもどうぞよろしくお願ひします。そして、福祉センターを中心に障がい者スポーツが発展することを強く願っています。

### 「かけがえのない人、かけがえのない場所」

宮川 佳代

息子はダウン症。1歳か2歳の頃、療育教室“うみのこ”で連れてきていただいたのがきっかけで、福祉センター（息子は「県福」と言っています。）を知りました。当時は近くに住んでおり、教室やイベントに参加したり、家族でプールを楽しんだりしていました。

小学生になり、道路状況によっては1時間近くかかるところに引っ越したこともあり、親の都合で足が遠のきました。

中学生になった息子は知的最重度。年間を通じて身体を動かせる場を探したのですがなかなか見つからず、ようやく見つけたのが県福で活動されているフライングディスクのクラブでした。競技自体の楽しさもさることながら、一緒に楽しめる仲間や指導して下さる方などとのステキな出会いがありました。

久しぶりの県福。以前からいてくださる職員さんは、何年も経っているのによく覚えていて声をかけてくださり、新しい職員さんはすぐに息子と仲良くなってくれました。いつも変わらず温かいまなざしで楽しく関わってくださる職員さんのおかげで、新しいことをためらいがちになっていた息子が、再び教室やたくさんのイベントに目を輝かせて参加していました。そこでもボランティアの方などとのステキな出会いもありました。

県福は職員さんをはじめ、かけがえのない人と出会える場、息子の世界が広がるかけがえのない場所です。そういう人と出会えたこと、そういう場所があることが幸せです。

## 「表現する楽しさ 広がれ」

絵画教室スマイル講師 竹内 由里子

7年前から絵画教室の活動で講師をさせていただいています。毎年5月スタートで絵を描く事が好きな方が申し込まれています。私が教室で大切にしている事は、目の前の画用紙は『自分だけの世界』なのだから描きたいものを楽しんで表現してほしいと思っています。「さあ、始めましょう」のかけ声にみんなの目がキラキラして画用紙に形や色が表現されていきます。どうしたらいいか悩んだ時は「ねえ、教えてー」と伝えてくれて一緒に方法を考えてみます。「そうか！こうしよう」と思いが決まったら、またイキイキ描かれます。

各自、自分の世界に没頭した時シーンとした中にシャカシャカと鉛筆や筆の音が響いています。活動終了30分前に発表会をします。今日どこを描いて、上手くいった点やこれから描きたい点を前に出て発言してもらいます。絵を描く仲間から拍手され、自分の気持ちが共感された時の発表の満足げな表情がとっても素敵です。発表を苦手としていた方も少しづつ心をひらいて前に出られる様になりました。

—昨年から県内の美術展にて入選や佳作をとられ認められる喜びの機会もありました。

私は、これからも参加者が笑顔で自分らしく表現されるお手伝いをしたいと思っています。

## 「レッツイベントに参加して」

びわこ学園 高塩 純一

コロナ禍において、多くのイベントや行事が中止や延期を余儀なくされました。その中で、滋賀県立障害者福祉センター行事のレッツイベントは、規模や形を変えながらも継続的に開催され、地域の子どもたちや家族にとって、大きな心の支えとなりました。レッツイベントの存在は、コロナ禍で感染拡大を防ぐために必要以上に人との交流が制限された中、子どもたちが抱える心の傷を少しでも和らげることができたことを示しています。

私は日頃から障害のある子どもたちに関わる仕事をしていますが、レッツイベントで見せる子どもたちの笑顔は、リハビリテーション室で見るとは明らかに違います。子どもたちがイベントに参加するたびに、彼らが本当に必要としているのは、ただ楽しい時間だけではなく、支え合いや共感、そして誰かに認められることです。そういった心の交流が、子どもたちの成長につながると思います。私もこの時代と地域を共に生きる仲間として、微力ではありますがお手伝いさせていただきます。レッツイベントが継続的に開催されることで、地域のコミュニティがより強固に結ばれ、子どもたちと家族がより充実した生活を送れるように...

# V 施設の概要

## 1. 設置目的

心身障害者に関する各種の相談に応じるとともに、心身障害者の教養の向上、健康増進、社会との交流促進等のための便宜を総合的に供与し、心身障害者の福祉の増進を図る。

## 2. 建設の経緯

- (1) 昭和61年 7月11日 身体障害者福祉センターA型検討委員会設置
- (2) 昭和62年 3月 身体障害者福祉センターA型整備の基本構想の結果報告
- (3) 平成元年 7月 3日 建築工事着工
- (4) 平成 2年 4月 1日 滋賀県立障害者福祉センター開設準備室設置
- (5) 平成 2年 6月27日 建築工事完工
- (6) 平成 2年 8月 1日 滋賀県立障害者福祉センターに名称変更
- (7) 平成 2年 8月 4日 開所式
- (8) 平成 2年 8月 7日 一般開放
- (9) 平成 8年11月 4日 多目的トイレ新築工事着工
- (10) 平成 9年 3月27日 多目的トイレ新築工事完工
- (11) 平成 9年 4月 1日 多目的トイレ供用開始
- (12) 平成14年 2月20日 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置及び多目的トイレへオストミー対応化工事(1ヶ所)

## 3. 建設の内容

- (1) 所在地 滋賀県草津市笠山八丁目 5 番 130 号
- (2) 規 模 敷地面積 12,679㎡  
建築面積 4,067,676㎡ 延床面積 3,970,219㎡
- (3) 構 造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造）勾配屋根平屋建
- (4) 建築工事費 約 12 億 2 千万円
- (5) 障害者への配慮
  - ア 正面玄関に誘導チャイム
  - イ 玄関ホール、多目的ホールに誘導チャイム付き点字案内施設図
  - ウ 所内外に点字誘導ブロック
  - エ 正面玄関横車椅子用駐車場へ屋根設置
  - オ 屋外からの出入口に感知式自動開閉扉
  - カ 各室出入口に半自動開閉扉
  - キ 廊下に所内案内点字付き手すり
  - ク ナースコール（プール、アリーナ、トイレ、更衣室等から事務室へ）
  - ケ 会議室に集団補聴設備（テレホンコイル付き補聴器受信可能）
  - コ 身体障害者に配慮した便器・洗面台
  - サ 多目的トイレに自動扉・収納式多目的シート  
オストミー対応・（人工肛門・膀胱造設者） 1ヶ所

- シ 館内トイレ全洋式化（内ウォシュレット11台設置）
- ス 冷暖房設備、床暖房設備（プールサイド、プール男女更衣室）
- セ 車椅子で飲める水飲み器
- ソ 文字放送地上デジタルテレビ
- タ 公衆ファックスの設置（平成8年度～令和4年度）
- チ 全館にスプリンクラーによる消火設備
- ツ 玄関及び観覧ホールに AED 設置
- テ アーチェリー場に雨よけ屋根設置

(6) 施設の内容

施設名	面積(m <sup>2</sup> )	内 容
アリーナ	809.47	バスケットボール、バレーボール、テニス、バドミントン等のライン区画 各種スポーツ用具、バスケットボール用電光掲示板、放送設備等設置、冷暖房設備完備
		付帯施設：男女更衣室、車椅子置場、器具庫
小アリーナ	135.71	卓球（サウンドテーブルテニス・車いす用）、遊具設置
トレーニング室	95.36	トレッドミルやエアロバイク等 10種類以上の運動トレーニング器具を設置
温水プール	750.76	FRP製25m×13m（6コース）、水深1.35m～1.55m プールフロア（2コース40cmかさ上げ） 日本水泳連盟公認、水温30℃、室温32℃に設定 車椅子用入水スロープ、床暖房、水質自動監視装置設置 自動計測装置
		付帯施設：採暖室、男女更衣室、個室更衣室、身障者用トイレ、観覧ホール、器具庫
会議室	158.59	100人収容、スライディングドアにより3室に間仕切り可能、 集団補聴設備、ビデオプロジェクター設置
和室	40.90	10畳×2室、文化・教養活動用として利用
医務室	13.86	応急処置、医療相談、利用者の健康相談に利用
ボランティア室	51.32	ボランティア養成・交流・障害者団体交流用として利用
ラウンジ	67.85	障害者福祉やスポーツに関する専門図書や資料を備え、 障害者の情報提供の場、談話室として利用
その他		多目的ホール、事務室
屋外アーチェリー場		9的(30m、50m)
駐車場		64台（うち車椅子用14台）

- (7) 令和4年度の主な改修工事
  - ア 給水管改修工事
  - イ プールサイド床暖房配管改修工事
  - ウ 館内LED化工事(アリーナ一部含む)

#### 4. 管理・運営

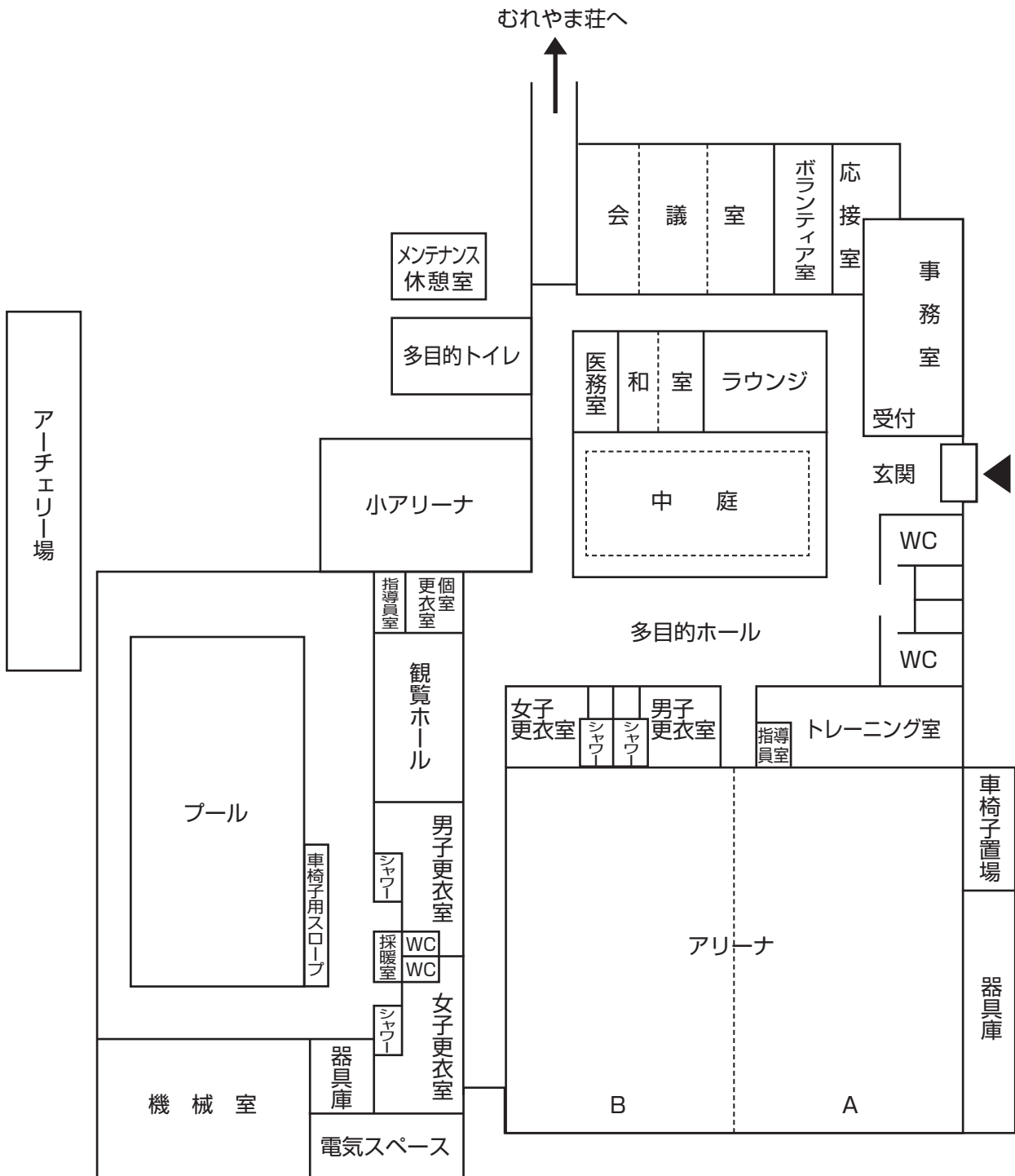
- (1) 設置主体 滋賀県
- (2) 運営主体 指定管理者 公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会
- (3) 休 所 日
  - ・月曜日（休日である場合を除く。）
  - ・休日の翌日（土曜日、日曜日または休日である場合を除く。）
  - ・12月29日～翌年1月3日
  - ・上記のほか管理者が定めた日
- (4) 開所時間 午前9時30分～午後8時30分
- (5) 利用時間

区 分	全 施 設
午前の部	9時30分 ～ 12時00分
午後の部	13時00分 ～ 16時30分
夜間の部	17時30分 ～ 20時30分

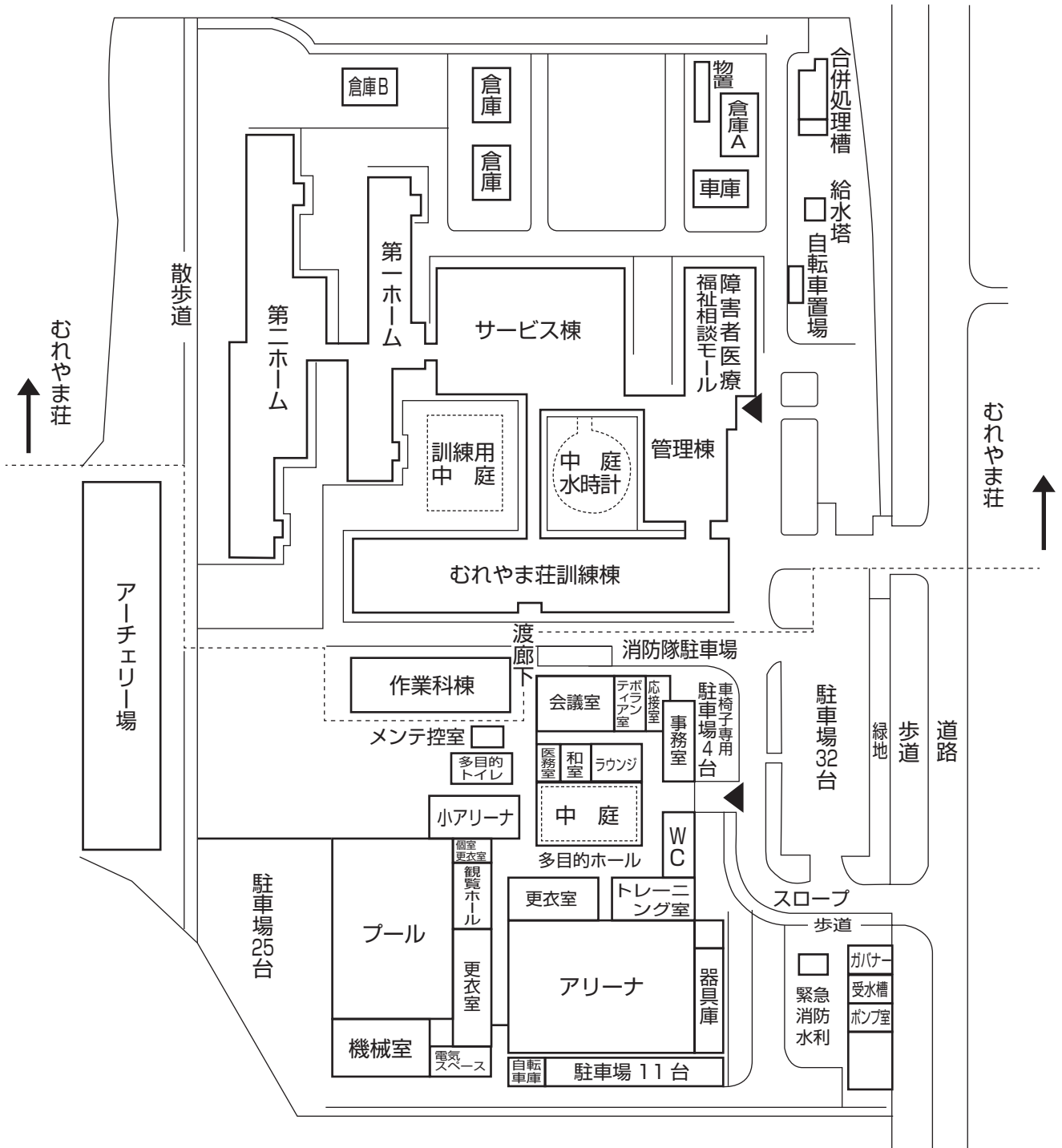
- (6) 利用対象者
  - ア 身体障害者手帳所持者
  - イ 療育手帳所持者
  - ウ 精神障害者保健福祉手帳または精神障害の状態に関する証明書所持者
  - エ 特定医療費（指定難病）受給者証所持者
  - オ 小児慢性特定疾病医療受給者証所持者
  - カ 前記ア～オに掲げる者とその障害が同程度と認められる者
  - キ 前記ア～カに同行してきた介助者
  - ク 登録ボランティア（障害者等の利用を妨げない程度）
  - ケ 前記ア～カに掲げる障害者以外の者  
（障害者等の利用を妨げない限度においてスポーツ施設有料にて利用可）



平面図



# 配置図



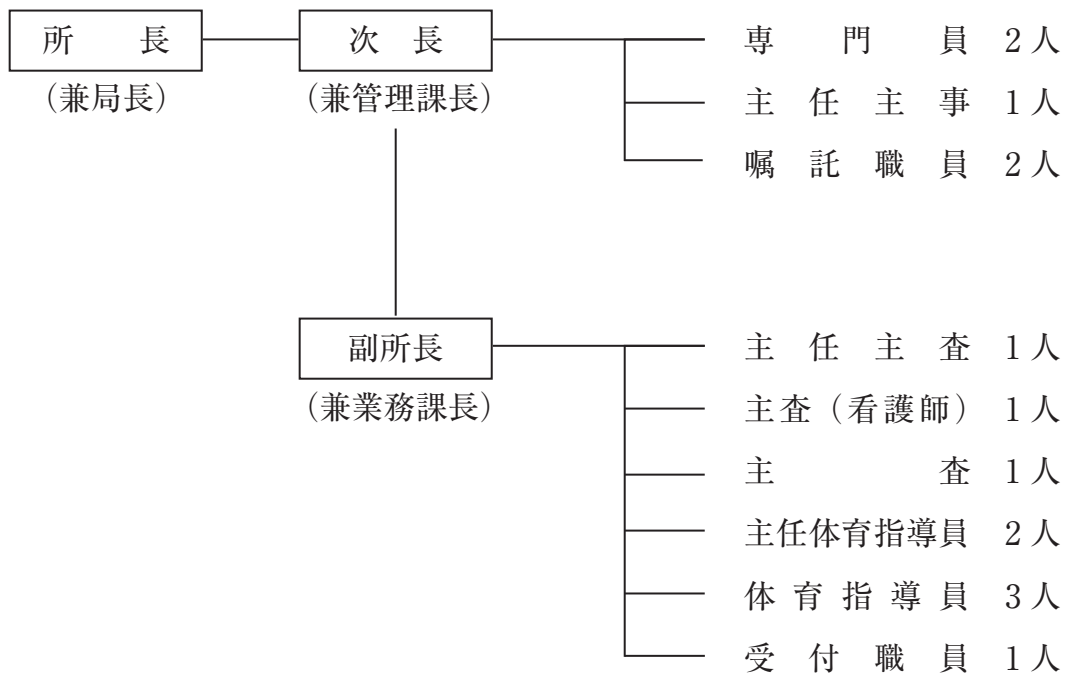
# VI 組 織

## 1. 組織図

当センターは、公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会が滋賀県から指定管理者としての指定を受けて、管理運営をしている施設です。

職員体制は表のとおりとなっています。

(令和5年4月1日現在)



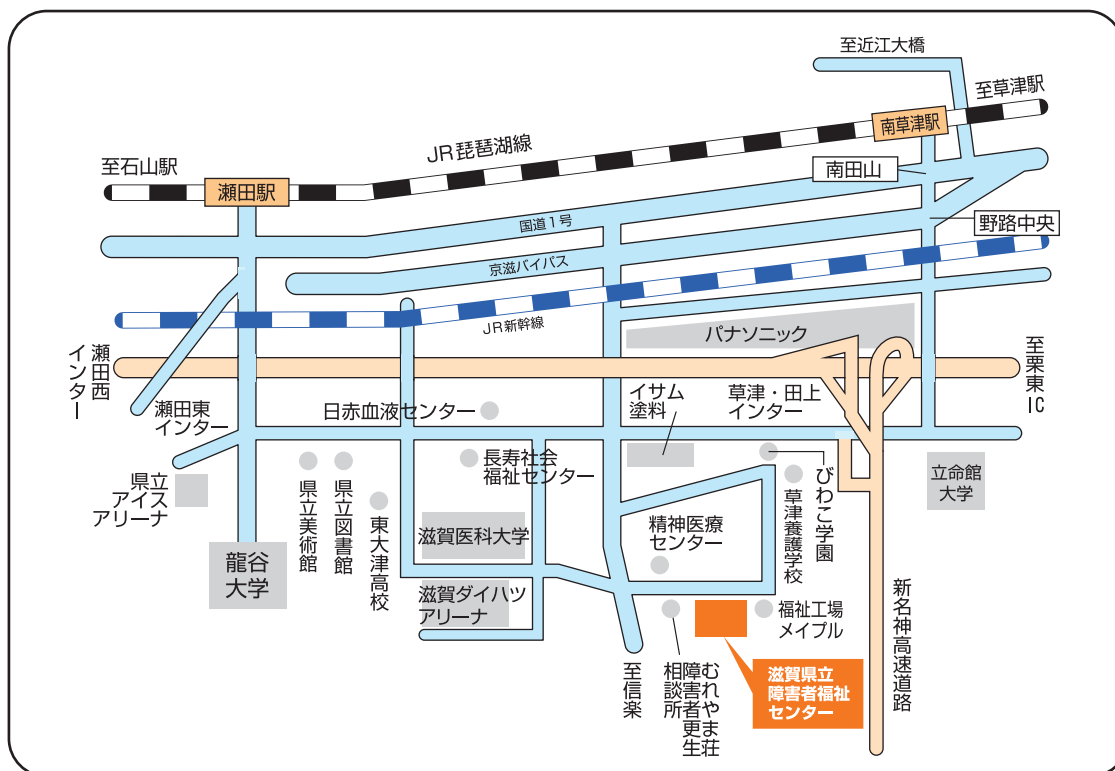
# 滋賀県立障害者福祉センター

〒525-0072 草津市笠山八丁目5番130号

TEL 077(564)7327 FAX 077(564)7641

<https://www.shiga-fukushi-center.com/>

E-mail [webmaster@shiga-fukushi-center.com](mailto:webmaster@shiga-fukushi-center.com)



## ●電車での来所

JR 南草津駅(バスのりば⑥番)から 総合福祉センター前下車  
※ JR 南草津駅と障害者福祉センター間、路線バス(ノンステップ)  
が運行されています。(帝産湖南交通)

## ●高速道路利用の場合

名神・新名神高速道路 草津・田上インターから約3分